

1 指定管理者による自己評価

評価項目	事業計画 ※事業計画書・業務仕様書等の主な内容を記載	実績 ※事業報告書・現地調査等の結果等の主な内容を記載	指定管理者による自己評価
施設維持 管理業務	【清掃】 施設環境を維持し、来園者の快適な施設利用を確保	管理研修棟、学校管理棟等の屋内清掃業務及び廃棄物処理業務を専門事業者へ委託して実施したほか、施設関係者による日常的な清掃を実施した。	S(優) 来園者から「快適」「美しい」「きれい」と評される優れた園内環境を確保することができた。
	【設備保守管理】 日常点検のほか、法令等に基づく定期点検等を実施	電気工作物、合併処理浄化槽、電話交換機、消防設備、空調設備等の保守管理業務について、資格者を有する専門事業者へ委託して実施した。	A(良) 職員及び委託業者による日常点検を実施し、安全管理の徹底に努めた。
	【植栽管理】 定期的な補植・除草等による快適な園内環境を維持	花壇、芝生、緩衝帯等の日常管理、定期的な補植、植替え、芝刈り、草刈り等を実施したほか、美観の維持に努めた。さらに、管理研修棟前にてプランターによるゴーヤ等によるグリーンカーテンを実施し、来園者の関心を集めた。	S(優) 整備の行き届いた芝生、植栽や間伐材やホトをを活用した花飾りなど、美しい環境づくりを推進することができた。また、芝桜やグリーンカーテンについても来園者の関心を大いに集めて、大変好評であった。
	【警備】 園内秩序の維持、盗難・火災等の未然防止による安全確保と財産保全を図る。	機械警備や委託業者による巡回警備を定期的にも実施した。特にイベント開催時には、周辺道路の混雑を避け来園者等の事故防止を図るため、交通整理や巡回等の警備強化を図った。	S(優) 機械警備並びに警備会社や公社職員等による巡回警備、交通整理及び来園者誘導等を実施し、利用者の安全確保に努めた。
	【小規模修繕】 来園者等の安全確保及び円滑な施設運営に必要と認められる場合に適宜実施	新型コロナウイルス感染防止のため、会議室へのアクリル板設置や換気設備の整備などを実施したほか、加工施設棟及び農産物直売所雨漏り修繕等を実施し、来園者へのサービスの向上を図った。	S(優) 開園からの年数経過により、修繕箇所が年々増えているが、来園者の安全確保を最優先し、適正な予算配分により要修繕箇所への対応を積極的に行い、来園者の安全確保をはじめ、快適性・利便性向上に努めた。
	【その他】 施設内巡視等の励行、施設賠償責任保険の付保等	園内巡回・警備日誌記録・施設管理の励行・施設賠償責任保険の付保、拾得物等の適正管理等に加え、衛生管理対策の徹底や消火等の消防訓練、台風対策等を実施した。	S(優) 巡回、保安警備による事故等の未然防止、消防訓練等を通じた有事の初動体制の整備を図り、来園者の安全・安心確保に努めた。
運営業務	【開館日・開館時間等】 開園日：休園日(12/29～1/3、毎週水曜日)を除く日、開園時間：午前9時～午後5時	計画どおり実施	A(良) 計画どおりに開館し、県民ニーズに沿った各種体験事業の充実にも努めた。
	【公共性・公平性の確保】 設置管理条例の趣旨や基本協定等を遵守し、公平かつ平等な施設運営を実施	トイレ、スロープ等の施設のバリアフリー化が整っており、車いすの貸し出しも行っている。車いすの手入れ等を実施し、公平かつ平等を基本とし、誰もが快適に利用できる施設運営を実施した。	S(優) 設置管理条例等に基づき、全ての利用者に公平な対応を行うよう徹底を図り、来園者にとって公平で快適に利用できる施設運営に努めた。最近では身体に障害のある方や車いす使用の高齢者の来園も増えつつある。アンケート結果や多数の礼状から、「職員が丁寧に対応してくれた。」等の肯定的な意見がほとんどを占めており、多くの来園者が満足し、快適に利用できるような施設運営となっている。
	【各種事業・プログラムの実施状況】 年間を通じて食と「農」に関する各種体験や実践、研修コース等を実施	事業参画者と連携した食体験、農産物直売、農産物加工体験、野菜・果樹栽培体験、里山再生塾等を実施した。また、親子での農業体験、生きがい農業コース、就農コース等において実践的な研修等を継続して実施した。さらに、楽農生活フェアを年4回、秋の感謝祭を年1回開催する等イベント開催に努めた。	S(優) 年間を通じて多彩な体験プログラムや研修コースを継続的に実施している。また、楽農生活フェアや、旬の農産物の収穫と加工体験をセットにした楽農体験パックの実施等、来園者のニーズを汲み取り、来園者の増加を図る工夫をしている。

評価項目	事業計画 ※事業計画書・業務仕様書等の主な内容を記載	実績 ※事業報告書・現地調査等の結果等の主な内容を記載	指定管理者による自己評価
	<p>【利用者満足度調査結果】 楽農生活の拠点施設として来園者の多様なニーズに応じた質の高いサービスを提供</p>	<p>来園者からの礼状に加え、「生きがい農業コース」「親子農業体験教室」等の参加者を対象にアンケートを実施したほか、来園者アンケートを実施し、施設運営に来園者の意見を反映させるツールとした。</p>	<p>S(優)</p> <p>アンケートからは「担当の方が要望にきめ細かく対応してくれた」、「居心地のいい1日を過ごせた」等の評価を得ているほか、「野菜を理解して育てることの重要さが解った」「子どもとの共通の話題にもなり、毎月の作業が楽しみでした」との回答を得るなど、楽農生活の推進上、効果的な事業展開と魅力ある施設運営に取り組んでおり、さらなる満足度の向上を目指したサービスの提供や対応に努めている。</p>
	<p>【その他】 研修室利用、視察対応、ホームページを通じた情報発信等</p>	<p>積極的な視察の受入や視察者への施設のPR、大規模イベントの開催、楽農生活フェア、ホームページによる情報提供等を実施した。引き続き掲示板により、園内の催しを広報するとともに、映像機器により、園内紹介ビデオを放映する等の情報発信にも努めた。</p>	<p>S(優)</p> <p>ホームページを活用した情報提供に加え、各種イベントの開催など、積極的な普及啓発とともに、WEBやラジオによる情報発信にも努めた。</p>
利用状況	<p>【利用者数】 利用者数目標：196,000名(年間)</p>	<p>来園者数：48,156名 (H31年度：128,849名)</p>	<p>B(可)</p> <p>令和2年度は前年度及び目標者数(196千人)に対し来園者数が激減した。原因はコロナ感染症の発生に伴い来場者の減少及び休園によるものと考えられる。このような状況下においても事業参画者との連携を密にし、センターでのコロナ感染症対策を実施して、安心・安全に会場していただけるように努めた。</p>
	<p>【施設稼働率】 開園予定日：307日</p>	<p>開園日：272日</p>	<p>S(優)</p> <p>「新型コロナウイルス感染症に係る兵庫県対処方針」に基づき、4/14～5/24の間、施設を臨時休園したがその他は計画どおり開園。今後も100%の達成を維持すべく適切な運営を行っていく。</p>
収支状況	<p>【収支計画と実績の比較】 収入：指定管理料 31,988千円 利用料金収入 365千円 支出：管理運営費 32,353千円</p>	<p>収入：指定管理料 40,692千円 利用料金収入 449千円 支出：管理運営費 41,142千円</p>	<p>S(優)</p> <p>新型コロナウイルス感染防止のため、会議室へのアクリル板設置や換気設備の整備などを急遽実施した。限られた期間内であったが、入札等の手続きを円滑に実施し、効率的、効果的な予算執行を行った。</p>
	<p>【経費節減に向けた取組み】 民間事業者の専門技術、経営ノウハウを活用し効率的な運営を実施</p>	<p>民間事業者や地元グループ等との連携と協働による日常的な経費節減を実施。特に夏期においてはデマンド管理により、電力の節約を事業参画者とともに実施し、経費節減を図った。</p>	<p>S(優)</p> <p>各種体験事業や管理業務を民間事業者や地元グループ等との協働で実施しており、公と民の連携による運営の効率化に努めた。特にデマンド管理、きのご館やレストランへのサンシェード設置や空調稼働率の高いきのご館への屋根散水設備等により夏期電力の節約に努めた。</p>
	<p>【人員の適切な配置】 施設やイベントの案内、利用者の安全確保、相談業務等を行う職員を配置し、迅速かつ誠意をもって対応する。</p>	<p>総括責任者(センター長)のもと、施設管理、学校事業、交流事業、普及啓発等の各種業務を効率的に推進するとともに、視察・イベント実施状況を確認できる体制を確保したほか、各種体験事業や大型イベント開催時等には、民間事業者、警備会社等を含めて、明確な役割分担による円滑かつ効率的な実施体制の確保に努めた。</p>	<p>S(優)</p> <p>民間事業者との連携や楽農生活インストラクター、地元農業者等も含めた適切な人員配置に努めた結果、的確かつ弾力的な運営を行うことができた。また、来園者の多い土曜日には警備員を配置し、来園者の安全・安心及び快適性の確保に努めた。</p>
運営体制	<p>【苦情要望等の対応体制・内容】 要望、苦情に対して誠意をもって対応する。</p>	<p>副センター長、次長において苦情要望等を集約し、職員及び事業参画者に対して適切な指導を実施した。また、管理研修棟エントランスにご意見箱を設置し来園者の要望等の収集に努めた。</p>	<p>S(優)</p> <p>施設利用者からの要望・苦情を集約し、迅速かつ誠意ある対応の徹底に努めた。また、ご意見箱については、その回答をエントランスに掲示して、他の来園者への情報発信にも活用した。</p>

評価項目	事業計画 ※事業計画書・業務仕様書等の主な内容を記載	実績 ※事業報告書・現地調査等の結果等の主な内容を記載	指定管理者による自己評価
	【危機管理体制の確保】 自衛消防組織編成に加え、公社本社、県所管課、警察署、消防署、救急医療センター、民間参画事業等を含むした緊急連絡体制を構築	計画どおり実施	A(良) 自衛消防組織編成や緊急連絡体制を構築し危機管理体制の確保に努めた。令和2年度は、大きな事故はなかったが、今後も危機管理体制を維持して緊急時に備える。
	【県・関係機関との連携体制】 民間参画事業者、所管行政庁等で構成する協議会等を通じた調整・連携、楽農インストラクター等の参画による事業推進を実施	計画どおり実施	A(良) 県と民間事業者を含めた協議会で定期的な連携体制が機能しているほか、緊急時には県と迅速な連絡を行っており、緊密な連携ができています。
		総合評価	A(良) 来園者数が減少しているものの、各種体験イベントやPR、フェアの開催、また視察対応にも積極的に取り組んだ。また、アンケートでも高い評価を得ており、非常に良好な運営ができています。

## 2 施設所管課による総合評価

総合評価値	A(良)
-------	------

<p>業務改善に向けた分析・指導内容(成果のあった点・改善を要する点)</p> <p>〔施設維持管理業務〕 イベント開催時における駐車場警備体制の徹底、日々の適正な施設修繕など、安全・安心な施設維持管理に努めるとともに、来園者が快適に過ごせる園内環境の確保に取り組んでおり、評価できる。</p> <p>〔運營業務〕 開設以来、来園者は237万人を超え、生きがい農業コースや親子農業体験教室など各種講座や体験を実施している。令和3年度には新たなレストランがオープンする予定で来園者の増加が期待できる。また、就農希望者のための総合的な農業研修である楽農学校就農コースでは80%を超える就農率を確保し、県が推進する就農者育成にも大きく貢献するなど、高い運営実績が評価できる。</p> <p>〔利用状況〕 令和2年度は新型コロナウイルス感染拡大防止のため臨時休園を行ったこと等により来園者数は4万8千人となり、前年度を8万人下回った。再開後は感染対策を徹底し、野菜栽培・収穫体験、里山体験等ファンづくりに取り組んでいる。また、定期の運営協議会において改善策の検討を図るなど、適切に対応されており評価できる。</p> <p>〔収支状況・運営体制〕 経費削減に努め、効率的な運営を行うとともに、指定管理者を中心に民間事業者や地元農業者グループ等が参画・連携し、効果的な事業展開が行えており、評価できる。 来園者の視点にたつて、さまざまな取り組みを進めており、今後もより多くの県民がそれぞれのライフスタイルに合った多様な「楽農生活」の実践ができる拠点施設として、施設運営、事業展開等の向上に向けた指導を行っていく。</p>
--

## 1 指定管理者による自己評価

評価項目	事業計画 ※事業計画書・業務仕様書等の主な内容を記載	実績 ※事業報告書・現地調査等の結果等の主な内容を記載	指定管理者による自己評価	
施設維持 管理業務	【清掃】  清掃の実施により園内を入園者が常に快適に利用できる状態を維持する。	毎日、園内清掃を実施。 (園路、広場、便所等 1回/日以上)	A(良)	清掃の実施により園内を入園者が常に快適に利用できる状態を維持した。
	【設備保守管理】  ・担当職員による日常点検 ・建築物、設備の定期点検 ・関係法令等に基づく法令点検等を専門業者に委託して実施	建物、園内道路等は、日常、各現場で担当職員が点検を行なうとともに、電気設備、汚水処理等関係法令等に基づく点検等は専門業者等に委託して実施。	A(良)	担当職員が毎日の園内巡視時に建築物・設備の状況を点検し、安全管理の徹底に努めた。
	【植栽管理】  四季の特徴を明確にしつつ、デザインを重視した花のある風景を演出する年間植栽管理計画を作成し実施。	植栽管理計画に基づく花壇の植栽や樹木剪定・伐採等による景観改良を実施。 花と緑のまちづくりセンターの協力を得て、枯松防止剤の樹幹注入による松くい虫防除を実施。	A(良)	年間植栽管理計画に基づき、花壇の植栽や雑木伐採等を実施し、憩いとやすらぎを創出する魅力ある景観づくりに努めた。
	【警備】  ・昼間における1日1回以上の巡視 ・夜間の機械警備 ・入園料の銀行への預金を複数の職員で実施	園内の安全確保のため、昼間の園内巡視による状況確認、夜間の機械警備等を実施。 また、事故等の発生に備え、対応マニュアルの再確認を職員に周知した。	A(良)	事業計画に基づき安全な対応ができた。
	【小規模修繕】  軽微な補修等については、職員や近隣業者により実施する。	軽微な補修等については、職員や近隣業者により実施した。	A(良)	軽微な補修等については、職員自らが補修するなど迅速な対応を行ない、利用者の快適性・安全性の確保や景観に配慮した施設補修を行なうことができた。
	【その他】  ・ごみ持ち帰り運動や分別収集の実施 ・園内で発生する鉢土の再生化や自然還元などにより資源の有効活用を図る。	ごみの持ち帰り運動や分別収集を実施、また園内で発生した鉢土の再生化や自然還元を実施。	A(良)	資源の有効活用に努めることができた。
運営業務	【開園日・開園時間等】  ・休園日:毎週水曜日及び12月28日～翌年1月1日(ただし、3月上旬～5月上旬、10月下旬～11月下旬、1月2日～1月4日は無休)	左記の通り (新型コロナウイルス感染拡大防止のため、4月14日～5月17日まで臨時休園また夏期、冬季の夜間一部開園は中止)	A(良)	計画通りに実施できた。 (新型コロナウイルス感染拡大防止のための臨時休業等を除く)
	【公共性・公平性の確保】  地域自治体や地域団体との連携を図り、施設の利用促進を実施する。	地域団体と連携し、感染対策を行なった上で、イベント(ロハスパーク)を開催した。 (例年実施している加西市じば産物産展、地元高校のマラソン大会の園内開催は新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止)	A(良)	地域との連携を図り、公共性の確保に努めた。
	【各種事業・プログラムの実施状況】  入園者ニーズを踏まえた花に関する催し物や各種誘客イベントを企画実施	新型コロナウイルス感染拡大対策のため広い会場への変更や消毒・換気などの対策を行なった上で62回のイベント等を実施、対策が難しいなどの理由で29回のイベントは中止した。	A(良)	地域内外の利用者にイベントに参加してもらうことにより、花等に関する知識を広めるだけでなく、利用者へ憩いを提供するなど満足度向上に努めた。
	【利用者満足度調査結果】  入園者へのアンケート調査を年1回実施	令和2年11月3日に南入園口で来園者アンケートを実施(回答数255人)。	A(良)	施設の運営、管理等に関して、8割以上の方から「大変満足」もしくは「やや満足」との回答があったことから、利用者ニーズを満たしていると考えられる。
	【その他】  新型コロナウイルス感染防止について、消毒液の設置や入園者への注意喚起を実施。	新型コロナウイルス感染防止について、消毒液の設置や入園者への注意喚起を実施。	A(良)	新型コロナウイルス感染拡大防止のため、注意喚起の掲示や消毒液の確保を迅速に行なった。
利用状況	【利用者数】  目標入園者数:250千人	151千人	A(良)	新型コロナウイルス感染防止対策のため、4～5月の臨時休園や夏期、冬季の夜間一部開園の中止等により入園者数は目標を大きく下回った。一方、団体客がほとんどない中でも前年の入園者数を上回る月もあった。
	【施設稼働率】  体験教室の開催:10回	10回(参加者延べ251人)	S(優)	新型コロナウイルス感染拡大防止のため、多くのイベントを中止にせざるを得ない状況の中、多くの方に体験いただき、好評を博した。

評価項目	事業計画 ※事業計画書・業務仕様書等の主な内容を記載	実績 ※事業報告書・現地調査等の結果等の主な内容を記載	指定管理者による自己評価	
収支状況	【収支計画と実績の比較】 適切な人員配置、各種資材の適切な管理等により、コストの削減を図る。	限られた人数を適切・柔軟に配置することにより、コストを削減した。	A(良)	計画通りに実施できた。
	【経費節減に向けた取組み】 管理運営業務等に係る資材・資源の節減管理を行なう。	施設維持管理作業等の直営化により外部委託費、購入経費を削減、また、園内の清掃を全職員で実施。	A(良)	施設維持費の節減などにより、効率的な運営に努めた。
	【その他】			
運営体制	【人員の適切な配置】 ・適切な人員配置 ・本部による総務部、業務部の連携・支援により効率的な管理運営を実施。	計画の通り	A(良)	計画通りに実施できた。
	【苦情要望等の対応体制・内容】 利用者からの苦情に対して迅速かつ誠意ある対応に努め、重要なものは県に連絡する。	計画の通り	A(良)	利用者からの苦情に対して迅速かつ誠意ある対応に努めることができた。
	【危機管理体制の確保】 マニュアルを基に利用者の安全確保を第一とした管理体制の確保	ネットワークへの掲載、職員研修の実施により危機管理マニュアルの内容を周知した。	A(良)	職員研修を実施するなど、危機管理に対する職員の意識向上に努め、徹底を図った。
	【県・関係機関との連携体制】 県等と密に連絡を取りながら管理運営を実施	古代鏡博物館展示室拡張工事が温室等の修繕を開園しながら行なうことができた。	A(良)	県等と連携し適切な運営が行えた。
		総合評価	A(良)	新型コロナウイルス感染防止対策のための臨時休園等により入園者数は目標を大きく下回ったが、団体客がほとんどない中でも前年の入園者数を上回る月も多かった。また、利用者満足度調査の施設全体において8割以上の入園者が肯定的な意見を回答しており、概ね適正な管理を行なうことができた。今後は新型コロナウイルス感染症対策を万全にししながら、入園者数の向上、効率的な運営に努めていく。

## 2 施設所管課による総合評価

総合評価値	A(良)
-------	------

<p>業務改善に向けた分析・指導内容(成果のあった点・改善を要する点)</p> <p>○新型コロナウイルス感染症対策 ・新型コロナウイルスへの対応で臨時休園した際、県との連携、来園者への周知、関連事業者との調整を実施し、混乱なく円滑に休園できるよう努めた。また、開園再開後も消毒液の設置や入園者への注意喚起など、感染症拡大防止に工夫しながら取り組んでいる。</p> <p>○入園者数の確保 繁忙時期の臨時休園により年間の入園者数は目標を下回ったが、四季の特徴を活かした花壇の植栽・展示や花に関する催し物や各種イベントの実施により、団体客がほとんどない中でも前年度の入園者数を上回る月も多かった。</p> <p>○施設の魅力向上 ・県立フラワーセンターで長年に渡って収集・保全・展示してきた、2つの植物コレクションが、後世に伝えるべき貴重な植物として高く評価され、(公社)日本植物園協会の「ナショナルコレクション」に認定された。今後はこの貴重なコレクションを活かした温室展示や、これらを活かしたイベントを通じて、県民に花と緑の魅力を伝える取組を一層推進することが期待される。</p>
--

1 指定管理者による自己評価

評価項目	事業計画 ※事業計画書・業務仕様書等の主な内容を記載	実績 ※事業報告書・現地調査等の結果等の主な内容を記載	指定管理者による自己評価	
施設維持 管理業務	【清掃】  入園者が常に快適に利用できる状態を維持する。	毎日、園内清掃を実施 (園路、芝生、駐車場、便益施設棟等 1回/日以上)	A(良)	清掃の実施により入園者が常に快適に 過ごせる状態を維持した。
	【設備保守管理】  ・担当職員による日常点検 ・建築物、設備の定期点検 ・関係法令等に基づく法令点検等を専門業 者に委託して実施	建物、園内道路等は、日常、各現場で担当 職員が点検を行うとともに、電気設備、汚 水処理等関係法令等に基づく法令点検等 は、専門業者等に委託して実施	A(良)	毎日の園内巡視時に建築物・設備の状 況を点検し、安全管理の徹底に努めた。
	【植栽管理】  ・花畑の生育状況を把握し、灌水、抜根除 草、薬剤散布等を計画的に実施 ・レストランからの眺望を意識した植栽を計 画 ・兵庫県内で生産された花苗を使用 ・近隣牧場と連携し低コストで大面積への 堆肥散布	便益施設棟周辺の花壇・プランターの植栽 ならびに花畑のアイランドポピーやキン ギョソウ、三尺バーベナ等の植栽・管理を 実施	A(良)	年間植栽管理計画に基づき、花畑や花 壇の植栽管理を実施し、魅力ある景観 作りに努めた。
	【警備】  ・昼間における1日1回以上の巡視 ・夜間における便益施設棟の機械警備 ・駐車場、園内の監視カメラによる昼夜監 視 ・入園ゲート解錠、駐車場入口止め設 置	夜間における施設管理は、機械警備によ る安全な対応ができたほか、駐車料金の 銀行への預金は、複数の職員で実施 園内の監視カメラを増設	A(良)	夜間における施設管理は機械警備によ り実施し、駐車料金等の銀行への預金 は複数の職員で行い万全を期した。
	【小規模修繕】  ・簡単な補修等については、職員による補 修作業や近隣業者による補修	軽微な補修作業は職員や業者で対応	A(良)	簡単な補修等については、職員自らが 補修するなど迅速な対応を行い、利用 者の快適性・安全性の確保や景観に配 慮した施設補修を行うことができた。
	【その他】  ごみ処理 ・ごみ持ち帰り運動の推進、ごみの分別収 集の実施 ・育苗用セルトレイの再利用	ごみの持ち帰り運動や分別収集を実施	A(良)	美観の維持、資源の有効活用等に努め ることができた。
	運営業務	【開園日・開園時間等】  ・休園日は12月29日から翌年1月3日まで ・開園時間は9時から17時まで	左記の通り	A(良)
【公共性・公平性の確保】  地元のイベント等に積極的に参加し、観光 関連団体との連携に努める		花みどりフェア2021のサテライト会場とし て参加	A(良)	花みどりフェア2021のサテライト会場とし てシンボルツリーの展示と写真スポット を設置した。
【各種事業・プログラムの実施状況】  入園者ニーズを踏まえた花に関する催し物 や各種誘客イベントを企画実施		公募したデザインを牧草地に描くアース ワーク作品展(募集は7月に実施) 応募総数 275点 (開催回数1回)	A(良)	地域内外の利用者にイベントに参加して もらうことにより、花等に関する知識を広 めるだけでなく、利用者へ憩いを提供す るなど満足度向上に努めた。

評価項目	事業計画 ※事業計画書・業務仕様書等の主な内容を記載	実績 ※事業報告書・現地調査等の結果等の主な内容を記載	指定管理者による自己評価	
	【利用者満足度調査結果】  入園者へのアンケート調査を年2回実施	10月20～29日の間に4日間で実施(回答数384人)	A(良)	10月のコスモス摘み取り体験時に実施95%以上の方が「花を満足できた」または「海との景色が満足できた」と回答しており、高い満足度が得られている。
	【その他】	新型コロナウイルス感染拡大防止について、窓口での消毒液の設置ならびに入口やトイレ等での掲示による入園者への注意喚起を実施	A(良)	注意喚起の掲示や消毒液の確保等、協会本部及びテナント等と連携して迅速に行い、対策を講じた。
利用状況	【入園者数】  目標入園者数:860,000人	入園者数 448,165人	A(良)	新型コロナウイルス感染拡大対策のため、4～5月に休園。観光バス等の団体客も大幅に減少した。一方、団体客がほとんどない中でも前年の入園者数を上回る月もあった。
	【施設稼働率】  駐車場	駐車場稼働率235.0% ※稼働率=延べ駐車台数/延べ駐車場枠数	S(優)	コロナによる影響もある中、稼働率200%を超える駐車場の利用があった。
収支状況	【収支計画と実績の比較】  適切な人員配置、各種資材の適切な管理等により、コストを削減	限られた人数を適切・柔軟に配置することにより、コストを削減	A(良)	計画通りに実施できた。
	【収支計画と実績の比較】  管理運営業務等に係る資材・資源の節減管理	施設維持管理作業等の直営化により外部委託費・購入経費を削減	A(良)	施設維持費の節減などにより、効率的な運営に努めた。
	【その他】			
運営体制	【人員の適切な配置】  適切な人員配置 本部における総務部、業務部の連携・支援により効率的な管理運営	統括責任者(園長)のもと、業務運営班と植栽管理班を設置し、施設の円滑な運営および園内植栽の適切な維持管理ができる体制を確保した。園内整備については協会本体業務部と施設で連携し、事業を実施した。 また、繁忙時期は交通整理警備委託を実施し、交通混雑による周辺地域への影響を抑制した。	A(良)	計画通りに実施できた。
	【苦情要望等の対応体制・内容】  利用者からの苦情に対して迅速かつ誠意ある対応に努め、重要なものは県に連絡	利用者からの苦情に対して迅速かつ誠意ある対応に努め、重要なものは県に連絡	A(良)	利用者からの苦情に対して迅速かつ誠意ある対応に努めることができた。
	【危機管理体制の確保】  マニュアルを基に利用者の安全確保を第一とした管理体制の確保	事故等の発生に備え、対応マニュアルを職員に周知	A(良)	始業前の打ち合わせ等で対応内容の確認・指示を行い、危機管理に対する職員の意識向上に努め、徹底を図った。

評価項目	事業計画 ※事業計画書・業務仕様書等の主な内容を記載	実績 ※事業報告書・現地調査等の結果等の主な内容を記載	指定管理者による自己評価
	【危機管理体制の確保】 マニュアルを基に利用者の安全確保を第一とした管理体制の確保	事故等の発生に備え、対応マニュアルを職員に周知	A(良) 始業前の打ち合わせ等で対応内容の確認・指示を行い、危機管理に対する職員の意識向上に努め、徹底を図った。
	【県・関係機関との連携体制】 抜本的に施設の修繕等が必要な場合は、県に報告し指示に従う	コロナウイルス対策並びに駐車場ゲートの設置工事を県と連携しながら実施	A(良) 県等と連携し適切な運営が行えた。
		総合評価	A(良) 今年度は新型コロナウイルス対策のため、長期間の休園を余儀なくされた。そのような中、メディア取材(累計253件)などに積極的に協力し、知名度の向上が図られ、例年以上の入込を記録する月もあった。今後は、コロナ対策を万全にしながら、来場者の満足度が上がるように植栽にも新たな取り組みを試みていく。

## 2 施設所管課による総合評価

総合評価値	A(良)
-------	------

<p>業務改善に向けた分析・指導内容(成果のあった点・改善を要する点)</p> <p>○新型コロナウイルス感染症対策</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・新型コロナウイルス感染症拡大を受けた緊急事態宣言発令による4月14日から5月24日までの臨時休園の際、県との連携、来園者への周知、入居テナントとの調整を実施し、混乱なく円滑に休園できるよう努めた。</li> <li>・便益施設等における出入口の分離や清掃・消毒の実施、園内のアナウンスなど、感染症拡大防止に工夫しながら取り組んでいる。</li> </ul> <p>○入園者数の確保</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・繁忙時期の臨時休園により年間の入園者数は目標を下回ったが、マスメディアによる取材への積極的な協力によって施設の認知度向上に努めており、夏から秋にかけては例年同等か例年を上回る来園があった。</li> <li>・あわじ花みどりフェア2021のサテライト会場としてシンボルツリー設置に協力し、フォトスポットとして好評を博すなど、施設の魅力向上に取り組んでいる。</li> <li>・公募したデザインを牧草地に描くアースワーク作品展示を行い、入園者確保に努めている。</li> <li>・年間植栽管理計画に基づき、花畑や花壇の植栽管理を実施し、年間を通じて「花とふれあう憩いの広場」として適正な管理運営に努めている。</li> <li>・駐車場料金ゲート設置工事において、工期や手法を調整し、休園することなく工事を完了させた。</li> </ul> <p>○施設の魅力向上</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・福祉のまちづくり条例に基づくチェック&amp;アドバイス制度に参画し、アドバイザーによる現地視察を受けて、障がい者や高齢者、外国人も利用しやすい施設となるよう運用面での改善を実施しており、公共性・公平性の確保にも積極的に努めている。</li> </ul>
---



1 指定管理者による自己評価

評価項目	事業計画 ※事業計画書・業務仕様書等の主な内容を記載	実績 ※事業報告書・現地調査等の結果等の主な内容を記載	指定管理者による自己評価	
施設維持 管理業務	【清掃】 屋外、屋内、トイレ、ゴミ処理の日常及び定期清掃の実施	作業員による日常的な清掃を実施。	A(良)	日常の清掃などを適切に行った。なお、アンケート結果では7割以上の利用者から「満足」との評価を得た。
	【設備保守管理】 日常点検、定期点検の実施	業務委託により、各種点検を実施。 電気設備年1回、消防設備年1回、電気工作物毎月、浄化槽毎月	A(良)	計画に基づき適切な管理を実施したことにより、設備の不具合などにより利用者に迷惑をかけることがなかった。
	【植栽管理】 入園者のニーズを踏まえた花の展示を行う。年間植栽管理計画を作成し実施	サルビア、ラベンダー、ピオラ、パンジー、チューリップ、コスモス等四季に応じた花木を植栽するとともに、害虫駆除や剪定を計画的に実施。	A(良)	計画に基づき1年中、花木の展示を行うことで、利用者に対し魅力ある景観の提供に努めた。
	【警備】 一日一回以上の巡視、夜間警備業務委託、施錠励行	長期継続業務委託契約により、夜間警備を実施。	A(良)	計画に基づき一日一回以上の巡視や施錠の徹底等を実施し、事故・盗難等の発生を未然に防止するよう努めたことから、警備上の問題は発生しなかった。
	【大・小規模修繕】 簡易な補修は職員による補修等に努める。抜本的な修繕は、応急措置と県に報告し指示を仰ぐ	小施設修繕22件 (小修繕は、材料を購入して、職員で修理するなど節約に努めた。) 大規模修繕は1件 (山頂管理道路補修工事)	A(良)	小規模な修繕は、直ちに対応し、利用者にとって快適な施設の維持に努めた。 大規模は利用者の不便解消のため行った。
運営業務	【開館日・開館時間等】 木曜休園(祝日の場合は翌日) 開園時間 9時～17時	開園日数:287日 (8月13日臨時開園) 開園時間:9時～17時	A(良)	計画通りに閉館するとともに、臨時開園日を設定し、来園者の確保に努めた。アンケート結果では、利用者から特段の不満はなかった。
	【公共性・公平性の確保】 公平な運営と全ての人々が利用しやすい施設の運営	特定の利用者に有利不利にならないよう配慮。	S(優)	全ての利用者へ公平な対応を行うよう職員に対し徹底を図り、公平性の確保に努めた。 また、英語版パンフを作成しユニバーサル化を図った。
	【各種事業・プログラムの実施状況】 年間イベント計画 60回 特別展示会 2回	年間イベント 38回 施設イベント内容「大満足」、「満足」64%	A(良)	計画に基づき、利用者のニーズに対応した多様にイベントを実施。アンケート結果では、6割以上の利用者から「満足」の評価を得ることができた。
	【利用者満足度調査結果】 イベント開催時 3回	7・9・3月の3回実施。 施設全体の満足度「大変満足」と「満足」75.0%	A(良)	計画に基づきアンケートを実施。施設全体の満足度において、7割以上の利用者より満足評価を得ることができた。
利用状況	【利用者数】 年間来園者目標20万人	R2年度来園者97,060人 (対前年67.7%)	A(良)	4月14日～5月17日までコロナ緊急事態措置のため閉園としたこと等により、目標の20万人に大きく届かなかった。各種イベントの実施による集客対策の実施、ひとはくコラボ企画等より、リピーターの確保に努めた。
	【施設稼働率】 農産加工室の稼働率を向上を図る。	年間開園日数287日、稼働日数88日 (30.6%)、回数140回	A(良)	コロナ緊急事態措置による閉園及び感染対策のため、人数を制限したこと等で前年より稼働率が減少したが、加工体験は、参加者の喜ぶ姿が多く見られた。
収支状況	【収支計画と実績の比較】 農産加工室については、利用率の向上を図るとともに利用料を維持管理に充当する。 指定管理費94,800千円・利用料86千円	指定管理料 94,800千円 利用料86千円	A(良)	利用料金は、前年より下回った。加工体験当日受付の充実と、イベント等活用し稼働率の向上に取り組みたい。
	【経費節減に向けた取組み】 適切な人員配置と資材の適切な管理によりコスト削減を図る	冷暖房の温度管理、昼休みの消灯・節電、節水の啓発、用紙の裏面使用、職員による施設補修、作業器具や機械等の修理を実施。 (平日の冷暖房使用を抑える) 冷暖房装置の改修により光熱水費の削減に努めた。	S(優)	計画に基づき経費削減に取り組み、一定の縮減を図ることができた。今後も節約に努め、経費削減に引き続き取り組んでいきたいがこれ以上は、出来ない。

運営体制	【人員の適切な配置】 正規3人、会計年度任用職員15人で運営	植物担当1人、小動物3人、大動物3人、加工1人、博物館2人、用務1人、事務1人、地域おこし協力隊員2名、地域再生協働員1名、園長、課長兼業務係長、公園管理係長 計18名	S(優)	計画に基づき人員を適切に配置し、業務運営を行った。臨時的な人材確保にはシルバー人材センターからの人材確保で対応した。
	【苦情要望等の対応体制・内容】 利用者本位の観点から誠意をもって対応。速やかに県に報告。	職員から先にあいさつをするように「あいさつ運動・おもてなしの心接遇」を実施している。ご意見ご要望箱を設置しHPで回答している。	S(優)	すぐに対応できる要望については迅速に対処するとともに、予算を伴うものについては県に要望するなど協議しながら改善を図り、今後も利用者満足度の向上に努めたい。
	【危機管理体制の確保】 緊急、救急、災害時に迅速に対応できる対策を講じる	緊急連絡網を職員に周知、対応マニュアルを整備。常備薬の確保と提供を実施。	A(良)	緊急時に備え職員の防災意識の向上に努める。
	【県・関係機関との連携体制】 記録等の作成、保存及び報告を行う、県からの要請があった場合は協力する。	入園者数、施設利用状況など毎月報告。その他要請には迅速に対応した。	A(良)	施設の運営状況などについて随時県に報告を行い、連携をとりながら適正な運営にあたった。
総合評価			A(良)	利用者アンケート結果でも施設全体の満足度について、不満評価はほとんどなく、リピーターも過半数を超え概ね良好な運営を行うことができたと考える。今後も県と連携しながら、積極的に利用者の増加に向けて集客イベントの実施や積極的な広報活動を行う。人口減少は進み集客増加は厳しくなっているが、多くの県民の方がリピーターとなるよう努力する。

## 2 施設所管課による総合評価

総合評価値	A(良)
-------	------

<p>業務改善に向けた分析・指導内容(成果のあった点・改善を要する点)</p> <p>○利用者アンケート結果で、施設全体の満足度について7割の利用者から満足評価を得ており、おおむね良好な運営を行なうことができていると評価できる。</p> <p>○神戸ビーフ・但馬牛の国内外の需要が高まっており、神戸ビーフ・但馬牛の正確な情報を発信するため、H30年4月に「但馬牛博物館」のリニューアルが行なわれた。年2回の企画展、他の博物館との共同イベントを実施している。また、平成31年の但馬牛の農業遺産への登録に伴い、新しい情報発信の拠点として、博物館内に「農業遺産体験館」を増築し、R3年6月末にオープン予定である。</p> <p>○年間入園者数は減少しており、新型コロナウイルス感染症の影響で年間を通して来園者が少なく、特に緊急事態措置により、4月14日～5月17日まで閉園としたことが主な原因。(来園者：R2年度97,060人、平成31年度143,330人、前年度対比67.7%)。</p> <p>○入園者数は減少したものの、新規イベント企画等の実施による集客を見込んだ運営を行っていたことは評価できる。(イベント実施回数60回/年、イベント参加人数:2,804人/年)</p> <p>○今後とも年間を通じて集客が見込める魅力的なイベントや、農産加工体験の企画立案、広報活動等の強化を指導していく。</p>
--

1 指定管理者による自己評価

評価項目	事業計画 ※事業計画書・業務仕様書等の主な内容を記載	実績 ※事業報告書・現地調査等の結果等の主な内容を記載	指定管理者による自己評価	
施設維持 管理業務	【清掃】 日常的な清掃の実施 廃棄物処理の実施	日常点検の実施 外部委託(清掃(週4回)、塵芥処理(週1回)) エコハウスサポーターと職員による環境整備作業(年2回)	S(優)	来館者アンケートの施設全体の満足度で回答者の98.1%から不満はないと評価され、優れた館内環境を維持することができた。
	【設備保守管理】 日常点検及び定期点検の実施 建物・電気設備・工作物、空調設備、給排水設備、消防設備の保守管理	日常点検及び定期点検の実施 外部委託(電気・工作物保守点検(6回)、空調設備点検(2回)、排水再利用設備保守点検(毎月2回)、給水設備保守点検(1回)、消防設備保守点検(2回))	A(良)	職員及び委託業者による日常点検、定期点検を実施し、安全・良好な設備の維持管理ができた。
	【警備】 施設建物の夜間、休館日の警備	外部委託業者による機械警備の実施(毎日) 退庁時の施錠確認や不審者対応により事故・盗難の発生の未然防止に努めた。	A(良)	年間を通して、事故・事件の発生を防止できた。
	【小規模修繕】 必要に応じて速やかに実施	シアター空調機修理・汚水循環用給水ポンプ取替・丸棒階段修理・水道管緊急修繕、門扉改修・事務室空調機修理等の修繕を実施	A(良)	故障個所の発見から迅速な工事発注・修繕実施に努めた結果、館業務に影響がなかった。
	【その他】 施設周辺の環境美化	エコハウスサポーターによるエコの森の整備(5回)、花壇・七草園の整備(4回)、周辺清掃(2回)実施	A(良)	自然観察プログラムの円滑な実施ができるなど、施設周辺の良好な自然環境の維持ができた。
	運営業務	【開館日・開館時間等】 休館日：月曜日(祝日なら翌日)、12/31、1/1 開館時間：午前10時～午後5時	左記のとおり ※新型コロナウイルス感染拡大防止対策及び展示リニューアルに係る閉館期間を除く	A(良)
【公共性・公平性の確保】 多様な手段による広報活動の実施		県下幼保・小・中・高校・公民館・教育委員会・近隣施設等へチラシを配布 新聞・地域広報紙、テレビ、ラジオ、ホームページ、メールマガジン、フェイスブック等で施設案内や利用案内を公表	S(優)	広域的なチラシ配布や地元メディア、ホームページ等の活用、地域関係機関等との連携等、積極的な広報活動を行い、県民利用の向上に努めたことにより、新規の団体利用が増えた。
【各種事業・プログラムの実施状況】 環境学習事業(環境学習プログラムの実施) 人材育成事業(研修会、セミナー等の開催) 情報発信事業(HPの運営等)		環境学習事業(基本プログラム：40団体、1282人)(特別プログラム：39回、812人) 人材育成事業(講演会等6事業、58人) 情報発信事業(HPアクセス数、260,908件)	S(優)	事業計画に即した環境学習プログラムの実施や自主開催による研修会、セミナー等の開催により県民の施設利用促進につながった。
【利用者満足度調査結果】 年間を通して利用者アンケートを実施		アンケートにおいて、「満足」と回答した人の割合 ・環境プログラム 93.7% ・施設全体 86.9%	S(優)	利用者からは高い評価を得ており、優れた内容の事業・プログラムを提供できた。
【その他】 エコハウスサポーターの研修 館外研修(1回)、館内研修(2回)、目的別研修(随時)		館外研修(0回) 館内研修(2回) 目的別研修(5回)	A(良)	各種研修会・会議の実施によりエコハウスサポーターのスキルアップが促進できた。 なお、館外研修はコロナウィルスの影響により実施を見送った。
【利用者数】 年間目標 来館者数：8,000人 利用者数：32,000人		来館者数：3,336人(昨年度：7,799人) 利用者数：4,727人(昨年度：32,139人)	A(良)	新規団体の確保などに取組んだが、コロナウィルスによる休館、プログラムの中止の影響が大きく、昨年度に比べて利用者数が大幅に減少した。
収支状況	【収支計画と実績の比較】 収入の部：指定管理料 30,394千円 その他収入 425千円 支出の部：管理運営費 30,819千円	収入の部：指定管理料 32,441,000円 その他収入 401,355円 支出の部：管理運営費 32,842,355円	S(優)	協会自主財源により、新規プログラムの開発、リニューアル工事に伴い必要となった付帯設備の移設工事等を実施した。
	【経費節減に向けた取組み】 小規模修繕費の節減	職員、エコハウスサポーター(ボランティア)による草刈り、階段・側溝の整備等の実施	S(優)	職員やサポーターを活用することにより、小規模修繕費の削減を実施した。
	【その他】 利用者1人あたりの経費(管理運営費)節減	利用者1人あたりにかかる経費(管理運営費) 7,782円(前年度比7.2倍)	A(良)	利用者一人あたりの経費は、コロナウィルスの影響による臨時休館措置、イベント出展の中止、リニューアル工事期間中の長期閉館により利用者が大幅に減少した結果、経費が大きく増加した。

評価項目	事業計画 ※事業計画書・業務仕様書等の主な内容を記載	実績 ※事業報告書・現地調査等の結果等の主な内容を記載	指定管理者による自己評価
運営体制	【人員の適切な配置】 職員配置表を作成し、適切な人員を配置	館長(嘱託1人)、副館長(嘱託1人)、環境学習専門員(嘱託1人)、業務スタッフ(専門員1人、推進員1人)、エコハウスサポーター(ボランティア80人登録)	A(良) 団体対応にエコハウスサポーターの参加を依頼するなど、サポーターとの協力体制を通じて、適切な人員配置を行った。
	【苦情要望等の対応体制・内容】 電話、FAX、メール、郵便、アンケート等あらゆる方法での要望や苦情の受付及び迅速かつ誠実な対応と管理運営への反映実施	高齢者や足の不自由な方からの送迎要望(駐車場、体験館)など、利用者へ臨機応変に迅速かつ適切に対応	A(良) 職員対応への苦情はなく、来館者アンケートでは100%が不満はないと回答している。
	【危機管理体制の確保】 緊急時における迅速かつ適切な対応ができるようマニュアルの整備とスタッフ全員に対する防災教育・訓練の実施	マニュアル及び緊急連絡表の見直し 施設賠償保険等への加入 防災避難訓練、救急対応訓練の実施	A(良) エコハウスサポーターを専門分野の講師として育成・活用することにより外部講師への依頼(経費)を削減できた。
	【県・関係機関との連携体制】 県との密接な連絡調整の実施	利用者数等、利用状況の月例報告を実施 リニューアル工事にかかる実施設計から完成確認まで、随時調整会議を実施	S(優) コロナウイルスの影響により、県関連イベントの出展は減少したが、リニューアル工事については、県の改修方針の意向を確認し細部に渡る調整を繰り返し工事を完結した。
	【その他】 人材の育成	エコハウスサポーターを環境学習プログラムの専門講師として育成し、外部講師への依頼を削減	A(良) エコハウスサポーターを専門分野の講師として育成・活用することにより外部講師への依頼(経費)を削減できた。
		総合評価	A(良) アンケートにおいて、98.1%の利用者が施設全体について不満はないと回答していることから、適切な管理、運営ができているものとする。 また、テーマ別の環境プログラムやエコイベントの実施など、利用者数増加に向けた魅力的で特色ある企画を立案・拡充している。 今後も外部有識者による運営委員会の意見等を反映した、効率的な運営に努めるとともに、積極的な広報活動を展開したい。

## 2 施設所管課による総合評価

総合評価値	A(良)
-------	------

<p>業務改善に向けた分析・指導内容(成果のあった点・改善を要する点)</p> <p>&lt;施設の維持管理&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ エコハウスサポーター(ボランティアスタッフ)の協力を得て施設周辺の環境美化を図るなど、経費を削減するとともに、適切な管理ができていることは評価できる。</li> </ul> <p>&lt;運営業務&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 新型コロナウイルス感染症拡大防止対策を行った上で、屋外での自然観察や、館内でのリサイクル工作など、環境学習プログラムの充実に努めたことは評価できる。さらに、環境学習プログラム内容について、94%の利用者から「満足」との回答を得られており、高く評価できる。</li> <li>○ プログラムの予約方法が電話のみであり、参加者、参加見込み者のニーズに十分応えられているとは言えない状況であるため、今後、他の予約方法について検討する必要がある。</li> </ul> <p>&lt;利用状況&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 利用者は4,727人と目標(32,000人)を大幅に下回ったが、当初から予定していた展示リニューアルに係る閉館に加え、新型コロナウイルス感染症拡大防止のための休館等によるものであり、やむをえないものと考えている。</li> </ul> <p>&lt;総合評価&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ アンケート結果によると、個々の項目(展示見学コースの内容、職員・スタッフの対応等)について、概ね高い満足度を得ていることに加え、施設全体についても98%の利用者から不満はないとの回答を得ており、高く評価できる。</li> </ul>
---

1 指定管理者による自己評価

評価項目	事業計画 ※事業計画書・業務仕様書等の主な内容を記載	実績 ※事業報告書・現地調査等の結果等の主な内容を記載	指定管理者による自己評価
施設維持 管理業務	<b>【清掃】</b> ・施設は職員による日常清掃 ・広場・遊歩道等は、職員及び園地管理委託による定期的清掃 ・ゴミの収集は業者に委託（週1回）	・施設は職員による日常清掃 ・広場・遊歩道は、職員による定期的清掃 ・ゴミの収集は業者に委託（週1回）	S（優） 職員による施設の日常清掃を行うなど、計画通り実施することができた。
	<b>【設備保守管理】</b> 専門業者委託により保守点検を実施 ・森林学習軌道（日常点検 定期年4回） ・電気設備（常時監視装置 定期年6回） ・学習館トイレ（定期年4回） ・消防設備（定期年1回）	専門業者委託により保守点検を実施 ・森林学習軌道（職員：日常点検 業者：定期年4回） ・電気設備（常時監視装置 定期偶数月） ・学習館トイレ（定期点検年4回） ・消防設備（定期年1回）	S（優） 計画通り実施することができた。
	<b>【植栽管理】</b> ・職員による日常手入れ	・職員による日常手入れ	S（優） 草刈りなど計画的に実施することができた。
	<b>【警備】</b> ・夜間・休日については、警備会社に委託	・夜間・休日については、警備会社に委託	S（優） 計画通り適正に管理することができた。
	<b>【小規模修繕】</b> ・当初計画なし	・電気設備の法定更新	S（優） 計画通り実施することができた。
	<b>【その他】</b>	・災害対策（砂防ダム 他） ・キュービクルのかさあげ工事 ・モノレール沿い排水路修繕	S（優） 計画通り実施することができた。
運営業務	<b>【開館日・開館時間等】</b> 休園日 月曜日 12月29日～1月3日 開園時間 9：00～17：00	休園日 月曜日 12月28日～1月4日 開園時間 9：00～17：00	S（優） 規定通り開園していたが、新型コロナウイルス感染防止のため4月15日～5月7日まで休園し、3月2日～6月8日・11月20日～3月10日まで森林学習軌道を運休しハイキングのみ利用可とした。
	<b>【公共性・公平性の確保】</b> ・参加者募集については、募集開始日設定の上、プログラムの公共施設への設置、西・中播磨館内の学校へ送付、インターネットに公開	・参加者募集については、募集開始日設定の上プログラムの公共施設への設置、西・中播磨館内の学校へ送付、市内の広報への折込、インターネットに公開	S（優） 多くの方に周知できるようメディア等を活用し、PRを行った。
	<b>【各種事業・プログラムの実施状況】</b> ・実施目標数 104プログラム（毎週土・日） ・特別プログラム 4回 ・団体利用目標数 173団体（平日の2/3）	・実施プログラム 42プログラム（雨天等により中止したものを除く） ・特別プログラム 0回 ・団体利用数 386団体	A（良） 活動スタッフを中心に適正に実施している。プログラムの内容により参加率に差があるので、引き続き内容に工夫が必要である。
	<b>【利用者満足度調査結果】</b> ・一般来園者に対しては、交流館及び学習館にそれぞれアンケート用紙を設置し、意見・要望を調査 ・プログラム参加者については、全員にアンケートを実施	・一般来園者アンケート 投函数 6件 総合評価 大変満足・やや満足 72% ・プログラムアンケート 回収数 33件 総合評価 大変満足・やや満足 85%	A（良） 利用者の大半の方に満足いただく結果を得ており、適切に管理運営が行えている。コロナ渦により利用者は大幅に減少した。

利用状況	【利用者数】 来園者：40,000人	年間利用者数 23,591人 ・一般利用者 1,782人 ・プログラム参加者 634人 ・団体利用者 386人 ・里山づくり活動参加者 150人 ・視察 5人 ・その他 2,541人	A (良)	コロナ渦により来園者数が大幅に減少した。
	【施設稼働率】 開園予定日 308日 森林学習軌道運行予定日 308日 森林学習軌道運行便数 2,518便	開園日 273日 森林学習軌道運行日 171日 森林学習軌道運行便数 1,873便	A (良)	新型コロナウイルス感染防止のため森林学習軌道を運休したこともあり、減少した。
収支状況	【収支計画と実績の比較】  予算額（指定管理料） 収入 29,825千円 支出 29,825千円	決算額（指定管理料） 収入 61,999,760円 支出 61,999,760円 ・収支計画通りに執行できず、プログラムの参加費収入を必要経費へ適正に執行した。	A (良)	指定管理料が厳しい中、プログラム参加料を含め、必要な経費を適正に執行した。
	【経費節減に向けた取組み】 ・職員が対応できるものは、職員で対応 ・プログラム材料のうち木材関係は、できるかぎり地元製材業者から出る廃材を活用	・職員が対応できるものは職員で対応し、プログラム材料のうち木材関係はできるかぎり地元製材業者から出る廃材を活用した。	S (優)	必要に応じて職員が指導をし、経費削減に努めた。
運営体制	【人員の適切な配置】 公園長 1名 プログラム担当 2名 施設管理担当 2名 庶務担当 1名 総務担当 1名	公園長 1名 プログラム担当 2名 施設管理担当 2名 庶務担当 1名 総務担当 1名	S (優)	適正な人員配置である。役割分担が明確であり、適正に管理している。
	【苦情要望等の対応体制・内容】 ・窓口・アンケート・地元からの要望は、内容により職員が対応できるものは、職員が対応。 ・プログラムのアンケートについては、スタッフ会議で検討。 ・窓口・アンケート・地元からの要望のうち重要事項は、国見の森運営協議会にて報告・協議 ・重要事項のうち緊急性・予算等の必要な場合は、関係機関と協議	・窓口・アンケート・地元からの要望は、内容により職員が対応できるものは職員が対応。 ・プログラムのアンケートについては、スタッフ会議で検討。 ・重要事項のうち緊急性・予算等の必要な場合は、関係機関と協議。	S (優)	要望等については、内容によりスタッフ会議等で検討し、対応が必要なものについては、迅速に処理をするとともに、プログラムへの意見等については今後に生かしていくこととしている。
	【危機管理体制の確保】 ・国見の森公園安全管理マニュアルの遵守	・国見の森公園安全管理マニュアルの遵守	S (優)	管理マニュアル遵守を職員へ徹底し、消防総合訓練を実施することができた。森林学習軌道に係る事故・災害危機管理マニュアルを作成した。
	【県・関係機関との連携体制】 ・運営状況については、必要に応じて県と協議 ・緊急時は内容別による連絡体制	・運営関係 公園PR ・施設関係 森林学習軌道の修理協議 ・事故関係 なし ・救急関係 なし ・消防関係 なし ・防犯関係 なし(駐在所による定期巡回)	S (優)	メディア等に取り上げていただきPRができた。日常的に関係機関と連絡を取り合っており、連携が取れていると考える。
		総合評価	S (優)	コロナ渦により来園者やプログラム実施日数等が減少したがハイキングの利用者は増えた、企業・ボランティアと協働し、適正に管理運営が行えた。

## 2 施設所管課による総合評価

総合評価値	S (優)
-------	-------

業務改善に向けた分析・指導内容（成果のあった点・改善を要する点）

- 企業の森との協働事業が本格化するほか、ボランティアと連携したプログラム実施がなされている。
- 地元の学校関係の受け入れや地域団体のイベントにも積極的に参加している。
- 地元企業の地域振興財団事業の誘致に成功した。
- TV取材のオファーや新聞の掲載等が増えた。
- コロナ禍に対応し、感染症防止対策を踏まえたプログラム活動を工夫して行っている。
- ふるさとの森公園の「県民の参画と協働により、森林の保全と創造を進めるとともに、地元住民と都市住民、世代間交流の場、親子・家族のふれあいの場、自然観察・体験の場を提供し、人と自然が共生する豊かな森づくりを推進する」との理念を踏まえた運営が行われており、引き続きこうした取り組みを継続・拡充することが望まれる。

令和 2 年度

兵庫県立ゆめさきの森公園

管理運営評価シート

(指定管理者: ゆめさきの森公園運営協議会)

1 指定管理者による自己評価

評価項目	事業計画 ※事業計画書・業務仕様書等の主な内容を記載	実績 ※事業報告書・現地調査等の結果等の主な内容を記載	指定管理者による自己評価	
施設維持 管理業務	【清掃】 ・園内の清潔さ、快適性を維持する。	・施設(事務所)は毎日清掃実施。 ・園内全般については除草・清掃業務を委託し、常に園内の清潔さ・安全性を確保した。 (2回/週)	S(優)	施設の清掃及び周辺の除草等、園内の美観が確保され来園者に好印象を与えている。芝生が綺麗と良く褒められる。
	【設備保守管理】 ・来園者への安全を確保する為に、日常の施設点検を行う。	・活動拠点周辺は毎日点検の実施。 ・散策道は月1回の点検を実施し、必要箇所の整備を行った。	A(良)	来園者の視線で点検を行っており、不安全箇所の修繕等実施し、来園者の安全が確保されている。ダニ・ヤマビル防止の為、草刈・落葉の清掃を実施している。
	【植栽管理】 ・通宝寺池周辺の景観整備。 ・広葉樹の育成。	・計画に沿った間伐・育林を行っている。 ・広葉樹林の育林(下草刈り)の実施。 ・希少植物の保護及び来園者の学習の場を確保する為、観察の森を継続整備した。	S(優)	ゆめもりクラブ(森林ボランティア)が中心となった里山再生の活動が定着した。池の東・西エリアに広葉樹を植樹した。鹿の食害に頭を痛めている。
	【警備】 ・警備会社(セコム)に委託し、夜間・休日の警備体制を確保する。 ・駐車場はバリカー施設を実施。	・事故等の問題もなく、安全が確保されている。 ・建物等チェックシートを記入することで漏れを無くしている。	A(良)	今後共事故防止に万全を期す。
	【小規模修繕】 ・来園者の安全・安心を主眼に計画的な修繕。	・散策道の木製階段の一部補修を行い、安全確保を図った。 ・通宝寺池堰堤の保護柵の補修と、池西の転落防止柵の補修を行い、安全確保と景観の向上を図った。	S(優)	拠点施設のウッドデッキの支柱、梁、手摺等の修繕及び施設東屋根雨漏り修繕を実施した。池西の転落防止柵の補修を行った。今後共安全を優先に計画的に行う。
	【その他】 害獣対策	・芝生広場、散策道など獣害をその都度補修した。特に芝生広場の猪被害はひどく、景観上大変見苦しく、初秋時期は日課となっている。また鹿の食害がひどくなり野草の植生が変わってきた。	S(優)	年間を通して芝生の手入れは大変だが、初秋に猪被害が毎年発生し、芝生の補修が大変である。鹿の糞に関しては毎朝回収を実施している。
運営業務	【開館日・開館時間等】 ・休園日: 月曜日、12月29日～1月3日 ・開園時間: 9月～翌4月 9時～17時 5月～8月 9時～18時	・日没が遅くなる4ヶ月間は、閉園時間を1時間延長している。特に夏休み期間中は開園時間いっぱいまでよく遊んでいる。	S(優)	問題なく運用しているため今後も継続していく。
	【公共性・公平性の確保】 ・全ての来園者の要望はできる限りの対応をする。特に小学校環境学習への受け入れは断らないことを前提に対応している。	・各種団体、学校等公共団体の要望に対応出来るよう自然散策の内容を充実した。 ・プログラムの案内及び実施状況など、出来る限りタイムリーな情報をブログも含めホームページに掲載した。	A(良)	学校の環境体験の場として貢献出来たと考えられる。小学校により200名弱の児童の受入も実施しており、大変喜ばれている。雨でも要望があれば実施する。
	【各種事業・プログラムの実施状況】 ・多彩なニーズに対応する事業展開。 ・プログラム案内のデザイン依頼(無料)による広報の充実。	・四季折々のプログラムを実施。 ・実施回数 37回(参加人数 800名) ・参加人数前年比49%(新型コロナウイルスの影響でプログラム中止46回) ・団体利用 28団体(784名)	A(良)	プログラム案内を広く公共施設に配布や、マスコミを活用した広報も実施し、より広い範囲からの参加があった。ピザ窯の利用や、ミツバチを活用した新たなプログラムの取り組みを継続実施した。
	【利用者満足度調査結果】 ・アンケート等による来園者の意識調査。	<評価結果> アンケート数68件 昨年の6月以降のアンケート取得 ・3回以上のリピーターが39% ・再来園の是非来たいが78%。 コメントも含め評価が高いと判断した。	S(優)	里山としての自然を楽しめる状態と安全面が両立できていると判断する。自然や環境に興味が持てるようなプログラムを今後共継続して行く。
	【その他】 ・トライやる・ウィーク ・インターンシップ(高校生)の受け入れ	・トライやる・ウィークは新型コロナウイルスの影響で中学校が中止とした。 ・インターンシップ(高校生)は1校1名受入れた。	A(良)	山の体験、農業の体験など幅広く自然と触れ合う職業体験を実施予定。自然の大切さ、里山の重要性などを理解してもらえるよう努力する。
利用状況	【利用者数】 ・年間利用目標数 24,500人	総利用者数: 17,488人 団体利用者数: 784人 プログラム参加者: 800人 里山づくり活動: 985人	A(良)	利用者数は新型コロナウイルスで前年比69%。団体でも小学校数校の中止があり減少した。プログラムは前年比24%となった。里山づくりは増加した。
	【施設稼働率】 ・休園日以外100%開園	施設全般うまく利用出来ている。 新型コロナウイルス感染防止のため県からの要請で約1ヶ月閉園を行った。	A(良)	今後共自然を活用した利用方法をPRして行き、地元との共生を深める。



評価項目	事業計画 ※事業計画書・業務仕様書等の主な内容を記載	実績 ※事業報告書・現地調査等の結果等の主な内容を記載	指定管理者による自己評価	
収支状況	【収支計画と実績の比較】 ・予算額(指定管理料+計画修繕費+整備工事) 収入43,377千円 支出43,377千円	・指定管理料は収支計画通りに執行した。 整備費83千円 計画修繕費 16,686千円を含む。	S(優)	経費節減に努めながら、年間計画に沿って執行することが出来た。
	【経費節減に向けた取組み】 ・設備維持管理を適切に行い、経費節減に務める。	・運営費の効率を図り、職員にコスト意識を徹底させた。 ・収穫物の販売により田畑の必要経費を概ね賄えた。	A(良)	経費節減は今後共継続する。
	【その他】			
運営体制	【人員の適切な配置】 ・運営職員6名 ・園地管理2名、清掃員1名(2回/週)	・事務局長1名、嘱託職員3名、補助職員2名体制。 ・園地管理は2名体制、清掃員1名、火・金の午前中活動依頼している。	A(良)	ボランティアとの協調もスムーズに取れ全般的に支障をきたすことなく運営出来た。 芝生広場が2ヶ所あるが、いつも綺麗と好評を得ている。
	【苦情要望等の対応体制・内容】 ・自動販売機の設置要望	・里山の自然を大切にす開園時の趣旨を大切にす、設置しないことを理解していただいている。	A(良)	事務局長が即時対応する。不在時は他の職員が即時対応し、後日報告を受ける。 苦情、要望等はほとんどない。
	【危機管理体制の確保】 ・緊急連絡体制の確立。 ・各種訓練の実施。	・起こりうる災害、事故を想定した机上連絡訓練の実施。 ・事務所内に緊急連絡先の掲示	A(良)	起こりうる災害に対し再認識し、意識の向上と、対応力が向上した。
	【県・関係機関との連携体制】 ・県、地域、関係機関との連携を図る。	・活動スタッフ用機関紙「こもれび通信」を地元自治会長4名にも送付し、公園の活動を理解してもらえるよう実施。	S(優)	ボランティアリーダー会議実施後の10日前後に毎月送付。遅れや漏れの無い案内が実施できた。
	【その他】 新規プログラムの継続実施	・ボランティアの高齢化で運営が厳しい中、新規プログラム継続実施の為に重複してグループに参加頂き、プログラム参加人数に大きく貢献してもらえた。	S(優)	新規プログラム(ミツバチを知ろう・里山でピザを焼こう)が定着したと判断する。新たな取り組みは大きな労力を要するが前向きに取り組んでもらえた。
総合評価			S(優)	年間利用者数は新型コロナウイルスの影響が大であり、目標を達成できなかった。 ゆめもりクラブ(森林ボランティア)が中心となり、散策道整備を始め、積極的に里山整備に取り組んでもらっている。

## 2 施設所管課による総合評価

総合評価値	S(優)
-------	------

業務改善に向けた分析・指導内容(成果のあった点・改善を要する点)

- 森林ボランティアが発展した「ゆめもりクラブ」が中心となり、企業とも協力して里山整備に力をいれている。
- 小学校の団体受け入れ、中学校のトライやるウィーク、高校のインターンシップ受け入れなど地域との交流、次世代の育成にも熱心である。
- コロナ禍に対応し、感染症防止対策を踏まえたプログラム活動を工夫して行っている。
- ふるさとの森公園の「県民の参画と協働により、森林の保全と創造を進めるとともに、地元住民と都市住民、世代間交流の場、親子・家族のふれあいの場、自然観察・体験の場を提供し、人と自然が共生する豊かな森づくりを推進する」との理念を踏まえた運営が行われており、引き続きこうした取り組みを継続・拡充することが望まれる。

1 指定管理者による自己評価

評価項目	事業計画 ※事業計画書・業務仕様書等の主な内容を記載	実績 ※事業報告書・現地調査等の結果等の主な内容を記載	指定管理者による自己評価	
施設維持 管理業務	【清掃】  トイレ・ホールの日常的清掃を行う。 倉庫等の整理整頓を行う。	トイレ・ホールの清掃、点検回数（毎日・火曜日 は水洗い） 里山倉庫、木工倉庫の整理整頓（月1回） 建物の周辺清掃（週1回）	A(良)	床はきれいが棚などにほこりが残っている 時がある。 木工倉庫は整理整頓が不十分であった。 ゴミ出しステーションは速やかに整理さ れてない多くあった。 建物の周辺に今必要でない色々な物が有 り整理されてない。
	【設備保守管理】  日常点検 浄化槽の保守管理 不具合の発見と早期の対策	浄化槽保守管理の実施（年8回2か所）	A(良)	法定点検を含め設備の保守管理ができた。
	【植栽管理】  定期的な草刈り（全般） シカによる被害の対策	拠点施設内の芝生の刈り込み、草刈りを随時実 施した。シカ対策として電柵、鹿ネットを拡張 した。	A(良)	シカ対策地して電気柵を改善したためシ カについては最小限の被害にとどめるこ とができた。イノシシについては今年も 芝生をめくられ被害が大きかった。
	【警備】  施設、駐車場パリカー施錠の順守 夜間警備はALSOKに委託している。	施設の施錠は担当者が施錠し、チェックシート に記入、サインをしている。夜間警備はALS OKに委託して管理している。	A(良)	最終のチェックが甘い部分があった。
	【小規模修繕】  園内の施設の点検及び小規模修繕の実施	ビオトープ八つ橋床老朽化により一部床板を張り 替え修繕した。	A(良)	ビオトープ床・渓流の八つ橋などの修繕 が実施できた
	【その他】  ボランティアとともに安全パトロールに よる異常カ所の発見とその対策 安全な散策道の維持管理	育てるGボランティアより散策道の異常個所の 連絡や処置対策してもらった。 散策道の保守整備作業年間18回実施した。	A(良)	散策道の整備を実施して維持管理に努め た。
運営業務	【開館日・開館時間等】  休園日 月曜日、12月29日～1月3日 開園時間 9:00～17:00	休園日 月曜日、12月29日～1月3日 開園時間 9:00～17:00	A(良)	平年通りに運用した。
	【公共性・公平性の確保】  プログラム受付日・時間の設定	プログラムの受付電話、FAX、メールで受付 日時を定め公平に受け付けた。	A(良)	トラブルなく運営できた。
	【各種事業・プログラムの実施状況】  多くの県民を対象にした四季折々に自然 とふれあえるプログラムの開催（61回） 利用団体のニーズに合った体験プログラ ムの開催（136団体） ボランティアによる里山づくり活動（年 間180日の活動） 平日の利用促進	一般向けプログラム事業の実施回数（17回） プログラム付団体受入れ数（20回） 平日利用・・・森のようちえん、健康ウォーキ ングなどの団体利用が122回のあった。 ボランティアによる里山活動 66回	B(可)	職員スタッフが2～3年前から頻りに退 職がありその結果申し送りが十分に伝わ らなく事業運営に支障をきたした。 一般向け、団体向けプログラム内容の不 十分な取り組みが目立った。 コロナによるプログラム数や参加人数な ど多方面での減少も大きい結果となっ た。
	【利用者満足度調査結果】  来園者にアンケート調査を実施 散策道の東屋に感想ノートを設置	施設ホールに来園者アンケート調査（1年間） を実施（38件）するとともに、展望台と黒木山 に感想ノートを設置し、391件のコメントがあっ た。ほとんどが満足された内容だった。	A(良)	調査結果の件数は少なかった。感想ノー トの件数はコロナのせいなのか平年より 多い件数があった。

評価項目	事業計画 ※事業計画書・業務仕様書等の主な内容を記載	実績 ※事業報告書・現地調査等の結果等の主な内容を記載	指定管理者による自己評価	
利用状況	【利用者数】 年間利用者数目標 25,000人	年間利用者数 15,013人 活動里山づくり 258人 プログラム参加数 186人 団体利用者数 2,837人 山登り利用者数 2,471人 一般来園者数 9,837人 コロナ緊急事態宣言による閉園 4月13日～5月21日(40日間)	A(良)	推定入園者数は10,000人減少した。 団体利用者数は平年とそれほど変わらない結果となった。
収支状況	【収支計画と実績の比較】 予算額(指定管理料) 収入 29,351千円 支出 29,351千円	指定管理料は予算額通りに執行できた。 指定管理料収入 29,921千円 執行額支出 29,921千円	A(良)	計画通りに執行できた。
	【経費節減に向けた取組み】 備用品に対する取り扱いを大切にするとともに、節約を推進する。	消耗品や備品の購入に関して優先順位を重視した計画で必要な物だけに絞り節約に努めた。	A(良)	経費節減に努めた取組みができた。
運営体制	【人員の適切な配置】 運営協議会職員5名 協会職員1名 園地管理人5名(日常2名体制) ボランティア登録46名	運営協議会職員…5人 協会日々雇用職員…1人 園地管理人…4人～5人(日常2人体制)	B(可)	運営協議会職員 R3 3/30現在 事務局長…1名 総務担当…1名 森づくり担当…1名 プログラム補助…1名 施設管理日々雇用職員…1名 園地管理人…4人名 企画担当が1名空きの状態である職員が全て未経験者である
	【苦情要望等の対応体制・内容】 苦情・要望は内容の把握に努める。 感想ノート(生の声の収集)の設置	苦情・要望は無かった。	A(良)	苦情・要望は無かった。
	【危機管理体制の確保】 講習会の開催	講習会は今年度開催が出来なかった。 散策道の立ち枯れ、倒木処理の実施(高木のため森林組合に依頼した)	B(可)	計画通りに執行出来なかった。
	【県・関係機関との連携体制】 県、地元、関係機関との連携を図る。 特に、町行政との関係性を強めた。	コロナの影響もありふるさとの森公園の取り組みができなかった。会議は1回の実施。緊急時の対応として連絡リストを作成したまた変更時も速やかにメンテを行った。	A(良)	連携体制は昨年と同様の体制に終わった。
総合評価			B(可)	総合的に十分な事業運営ができなかった。原因の一つには要員の人間関係と仕事に対する意識の違いが大きかった。又事業の目的・理念が理解できていなかったことも大きい。

## 2 施設所管課による総合評価

総合評価値	B(可)
-------	------

### 業務改善に向けた分析・指導内容(成果のあった点・改善を要する点)

○ボランティア等による活動や地域の小学校と連携した次世代育成の取り組みが行われている。  
○ふるさとの森公園の「県民の参画と協働により、森林の保全と創造を進めるとともに、地元住民と都市住民、世代間交流の場、親子・家族のふれあいの場、自然観察・体験の場を提供し、人と自然が共生する豊かな森づくりを推進する」との理念を踏まえた運営を行おうとしている。

1 指定管理者による自己評価

評価項目	事業計画 ※事業計画書・業務仕様書等の主な内容を記載	実績 ※事業報告書・現地調査等の結果等の主な内容を記載	指定管理者による自己評価
施設維持 管理業務	【清掃】 ・公園進入路・ダム湖周辺道路・トイレ・森の道場等の掃除 ・管理棟周辺の草ひきなど	園地管理の担当者により計画的に土砂、落ち葉、枝、倒木等の撤去が行われた。風雨により土砂の崩落、倒木、落枝、落葉が多いため継続的に作業を行う必要がある。 園地管理の担当者、職員により草引きを含め公園施設内外の清掃美化活動に努めた。ときおり公園に来られた方々から「美しいですね」と言っていたことも。	S(優) 甲子園球場66個分の面積を有する公園の景観・美観を保つのは多大の労力を必要とするが、安全第一に作業を継続することが大切なことから、公園職員で対処できる箇所を見極め、必要な場合は適宜専門業者に委託したことで、適切な管理ができた。
	【設備保守管理】 ・浄化槽点検 ・防火設備の管理	浄化槽については契約業者による定期点検を2ヶ月に1度実施。その結果、亀裂が見つかり応急処置を施したが、交換工事が必要となり、年度末に竣工。	S(優) 年度内に浄化槽とブロワーの交換工事が完了したことで、公園として適正な水質管理と来園者を不安なくお迎えする機能維持ができた。
	【植栽管理】 ・生垣や植木の剪定、下草刈りなど	夏場にかけて剪定、草刈りを行った。病害虫による被害等は見られない。	S(優) 公園の美観を保つ上で必要な作業であり、職員の安全確保を第一に実施できた。
	【警備】 ・夜間警備	無人となる夜間は機械警備による。侵入等の事例は発生していないが、機械の誤動作による発報が断続的に起こり、センサーをすべて交換した。しかし、発報は納まらず、徹底した調査の結果、天井裏に侵入した動物によるものと判明。	S(優) 誤動作の原因も判明し、センサーも新しいものに取り替えた。経費節減の観点から誤作動等の原因を究明し、夜間警備に係る費用の軽減に取り組んでいる。
	【小規模修繕】 ・照明設備の修繕 案内板の補修	切れた外灯の電球をLEDのものと交換。 案内板は必要に応じて新調し、修理のきくものは修理を行った。	S(優) 設備等の補修、修繕に迅速に対応している。散策路や登山道に設けられた案内板の中には破損がひどいものが残っており、今後も補修が必要。
	【その他】 ・施設・設備の復旧	豪雨により2箇所で散策路に影響を及ぼす崩落があり、1箇所については復旧工事を行ったが、もう1箇所は復旧できずに通行止めとなっている。	S(優) 来園者が利用できる散策路や登山道が多いことが本公園の特徴であることから、復旧には迅速な対応に努めたが、残る箇所の予算措置と早期復旧が必要である。
	【開館日・開館時間等】 〔休園日〕 月曜日(月曜日が祝日のときは翌日) 年末年始(12月29日～1月3日)を除き開園 〔開園時間〕 終年 9:00～17:00	・年度初めの閉園措置期間を除き、予定された日数、開園することができた。 ・開園時間は季節による増減はなし。	A(良) ・緊急事態宣言等の期間を除き、基準に則った適切な時間管理ができた。 ・終年9:00～17:00としているが、夏季は開園時間を延ばすことも検討する必要がある。
【公共性・公平性の確保】 ・プログラムの市内の全戸配布 ・人気プログラムの受付開始日・時間の設定	・プログラムは予定どおり全戸配布できた。 ・経費節減を考え『公園だより』の市内全戸配布を止めてみたが、予想したほどの節減にならなかったことから、次年度は復活する予定。 ・プログラム参加を公平にするために、受付開始日時を設けたが、申込みの集中により事務処理が輻輳。	A(良) スマホに対応したホームページを活用するなどインターネットでの情報発信に務めている。	
運営業務	【各種事業・プログラムの実施状況】 ・新プログラムの開発、園外での活動  ・プログラム「森の学校」開校 13年目  ・科目「里山文化」授業の支援 5年目  ・活動スタッフ(ボランティアスタッフ)のグループ活動	コロナ禍の影響もあり、みつろうでロウソクをつくろう、燻製器をつくろう、親子で飯作りをしようの3プログラムにとどまった。 コロナ禍の影響から9月に開校。募集定員20名に対し、9名の児童が参加、7回実施。 コロナ禍の影響から6月に開講。生徒10名が参加し、17回実施。 コロナ禍の影響から、グループ活動は「草木染め同好会」「里山施業」をのぞき低調であった。  基本プログラム実施回数と参加者数 里山体験班 12回 99名 里山伝承班 7回 90名 レクリエーション班 7回 68名 自然学習班 7回 66名 里山復元班 11回 101名 特別プログラム 里山まつり(春・秋) 中止 里山の日特別企画 中止 団体プログラム 13団体 262名	A(良) 年度前半は、新型コロナ感染拡大の影響から、計画のプログラムを中止又は延期せざるを得なかったが、感染防止対策に努めた結果、一定水準の事業は実施することができた。  プログラムの企画・運営に多くのボランティアスタッフが関わっており、「県民の参画と協働」を実践している。  コロナ禍の影響もあるが、新規プログラム数が減少してきている。  コロナ禍により中止するプログラムも多くあったが、今後はwith coronaの視点からどのようにすれば利用者、スタッフ、職員の安全を保持しながらプログラムを実施できるかを考えることも必要になる。

評価項目	事業計画 ※事業計画書・業務仕様書等の主な内容を記載	実績 ※事業報告書・現地調査等の結果等の主な内容を記載	指定管理者による自己評価	
	<b>【利用者満足度調査結果】</b> ・プログラム終了時にアンケートを実施	プログラム終了時に参加者全員にアンケートを実施。ほぼ全員に満足いただいている。開催してほしいプログラムについてもご要望をお書きいただき、新たな取組に活かせるようにしている。	S(優)	プログラム終了毎にアンケートを実施しているが、アンケートで得られた情報を担当者間で共有するだけでなく、一歩進んで新たな目標に向けて必要な情報を得るために質問事項を検討するなど改善を図っている。
	<b>【その他】</b> ・トライやる・ウィークへの協力	コロナ禍の影響から従来の形での実施は中止となった。その代わりとして1日のみの社会体験活動が行われた。	S(優)	1日のみの実施となったが、参加生徒にとって充実した体験ができたと思われる。
利用状況	<b>【利用者数】</b> ・年間20,000人を目標 ・リピーターを増やす	コロナ禍により年度初めからの閉園と7月までのプログラム中止が影響して16,603人と前年度を800名弱下回った。本公園のよさを知っていただいた方が再度、再々度訪れていることから、新たにお越しいただく人を増やす活動が必要。	A(良)	・年度当初の休園等の期間もあったが、一定水準の利用者を迎えることができた。 ・来園者に感動を与える魅力ある公園作り知恵を絞ることが大切。
	<b>【施設稼働率】</b> ・年末年始、定休日以外全て開園	年度初めの閉園措置期間を除き、100%開園。	A(良)	・基準に則った、開園日数を確保することができた。
収支状況	<b>【収支計画と実績の比較】</b> 当初予算額 収入 26,573千円 支出 26,573千円	決算額(指定管理料) 収入 36,158千円 支出 36,158千円 ・指定管理料は収支計画どおりに執行した。またプログラムによる参加料収入等は必要な経費へ充当することで適正に執行した。 ・経費の節減に努め適正な管理運営を行った。	S(優)	経費削減を図りながら、補修と創造を実現するために効率的な経理運営に努めている。
	<b>【経費節減に向けた取組み】</b> ・節電や需用費等の節約	・機会のあるごとに消費量の多い電化製品の新規買い換えやLED化を図り消費電力の削減に努めた。	A(良)	コピー用紙など消耗品もできるだけ無駄を生じない使い方を工夫して経費削減に努める。
運営体制	<b>【人員の適切な配置】</b> ・運営職員数:6名 (常勤嘱託2名、非常勤嘱託2名、日々雇用2名) ・園地管理担当職員数:5名	・運営職員のうち嘱託職員2名がプログラムの企画・運営を担当し、日々雇用職員が予約、受付、準備等で補助をした。 ・園地管理担当者5名のうち男性3名が散策路等の整備、施設の補修、草刈り、倒木・落葉の処理等を担当した。女性2名は週2回半日、施設の清掃活動を担当した。公園の景観、美観の保持に必要な不可欠な戦力。	A(良)	・県民の参画と協働により公園を運営しているが、ボランティアスタッフの若返りが進まなかったために、プログラムの準備などで職員が代わって行わなければならないことが多くなってきた。また、職員も比較的高齢なためオーバーワークになっているものもいる。活動スタッフも含め職員体制の見直しを図る必要がある。
	<b>【苦情要望等の対応体制・内容】</b> ・自動販売機の設置要望 ・携帯電話通信可能エリアに要望	・熱中症予防からながく要望された自販機であったが、利用者規模の予想から設置できないとのこと。代替の措置として手売りの形で飲料の販売を開始した。 ・AUのアンテナが設置され、深い谷間をのぞいてかなりのエリアでAUのスマホが使用可能になった。	S(優)	・飲料販売は、利用者の要望に沿ったサービスで適切に対応している。 ・携帯電話受信エリアの拡大は、時代・社会の状況変化に対応して設置されたもので利用者に好評であり、今後はWi-Fi等の整備拡充が課題である。
	<b>【危機管理体制の確保】</b> ・深山登山など散策路外の山道利用者の安全 ・緊急時の連絡網を作成し、警察・消防署・篠山市役所への連絡体制を整備し周知  ・活動スタッフ・職員に対する周知	・緊急時の対応を一番に考え連絡等の体制を設けている。 ・定期的に散策路など施設の点検、補修を行った。 ・傷などの応急処置に必要な衛生用品等を新調した。  ・活動スタッフについては緊急性を要するものを除き、「八幡谷通信」などを利用して情報の共有を図った。	S(優)	・緊急時の連絡体制整備や施設設備の定期的な点検補修、応急時に必要な衛生用品等の確保など、危機管理体制の強化に取り組んでいる。 ・AUのスマホが使えるエリアが広がったとのことだが、他社の携帯・スマホが使えるように要望することが必要。

評価項目	事業計画 ※事業計画書・業務仕様書等の主な内容を記載	実績 ※事業報告書・現地調査等の結果等の主な内容を記載	指定管理者による自己評価
	【県・関係機関との連携体制】 ・県と協会との連携	・必要に応じて県の豊かな森づくり課、兵庫丹波の森協会事務局との連携に努めた。	A(良) 県や協会事務局との連絡調整を密にし、施設設備の適正な維持管理に努めている。今後も、安全な公園を第一に、来園者、利用者に感動と親しみを与える運営を目指し、改善に努めていく。
	【その他】 ・プログラム等の展開について	・特定の人気プログラムに新規に参入することが難しくなっている。新規に参加するプログラムとして「はじめての〇〇」といったかたちでプログラムを考える必要がある。	A(良) プログラムのリピーターを大切にすることは当然として、新たに参加を考えている人たちが容易に予約可能な体制を設ける必要がある。
		総合評価	S(優) ボランティア活動スタッフ・職員が一丸となって「森が学校」を合い言葉にプログラム等を運営している。Cultura in naturaという新たなコンセプトも加わり、里山に生きる文化の継承、発展の基地としての役割も今後期待されている。今後のさらなる発展を目指していきたい。

## 2 施設所管課による総合評価

総合評価値	S(優)
-------	------

### 業務改善に向けた分析・指導内容(成果のあった点・改善を要する点)

○ボランティアの活動スタッフが班毎に会議を開催し、利用者の意見を反映し、豊かな里山づくりの推進と自然や里山文化に触れる機会となるプログラムを企画している。

○コロナ禍に対応し、感染症防止対策を踏まえたプログラム活動を工夫して行っている。

○ふるさとの森公園の「県民の参画と協働により、森林の保全と創造を進めるとともに、地元住民と都市住民、世代間交流の場、親子・家族のふれあいの場、自然観察・体験の場を提供し、人と自然が共生する豊かな森づくりを推進する」との理念を踏まえた運営が行われており、引き続きこうした取り組みを継続・拡充することが望まれる。

令和 2 年度

やしろの森公園

管理運営評価シート

(指定管理者: やしろの森公園協会)

1 指定管理者による自己評価

評価項目	事業計画 ※事業計画書・業務仕様書等の主な内容を記載	実績 ※事業報告書・現地調査等の結果等の主な内容を記載	指定管理者による自己評価	
施設維持 管理業務	<p>【清掃】</p> <p>日常的に細部に至るまで清掃を行い、常に清潔に保つことで規範を作り、ゴミの発生源を排除することでゴミゼロを目指し快適な環境を提供する。</p>	<p>母屋、施設の便所等の清掃及び園内のゴミ拾いを毎日実施徹底することでゴミを捨てない環境づくりを推進。周辺道路に不法投棄の防止の看板を設置。周辺のゴミ拾い・見回りを強化。</p>	S(優)	<p>ゴミのない環境づくりを推進した結果ゴミを捨てない規範が出来ている。散策路にほとんどゴミが無く来園者に気持ちよく施設を利用していただいている。独自の分別収集の結果ゴミの減量にも務めている。刈草や生ごみの堆肥化、間伐材の資源化など再資源化にも取り組んでいる。</p>
	<p>【設備保守管理】</p> <p>施設設備(電気・空調等)及び園内木製品(木道等)について保守点検を行う。必要に応じて保守整備を行う。整備にあたり伐採木の利用等園内の資源を有効活用する。</p>	<p>日常の保守点検を実施。木道等の構造物の改修計画を作成し優先度が高い箇所から順次補修工事を行った。ボランティアスタッフによる見回りも行い利用者の立場に立った保守管理を実施。</p>	S(優)	<p>安全性を重視し計画的に補修を実施。企業とボランティアスタッフの活動の一環として管理費以上の施設整備を実施した。あらゆる手法を探り極力低コストでの維持管理に務めた。台風による倒木等の処理も迅速に行い、安全確保を図った。</p>
	<p>【植栽管理】</p> <p>園内の除草・草刈り及び草木等の育成・管理について計画的に実施する。</p>	<p>専門的知識及び技術が必要な森林整備については、専門業者に委託し安全かつ効率的に実施。生物多様性に配慮すると共に、大型の台風や暴風雨が頻発する昨今の気象条件やナラ枯れ被害を考慮した今必要な森づくりを推進するとともに適期を逃さない除草を日常管理で行うなど安全快適な管理を行った。枯れ木の崩落を未然に防ぐための点検を行った。</p>	S(優)	<p>通常の管理に加え、生物多様性に配慮した公園づくりを推進。企業と協働で森づくりを行うなど先進的な取り組みとして評価を得ている。植栽木についてもボランティアスタッフが剪定を行うなど県民参加の公園づくりを実現している。ナラ枯れの調査を実施し、被害状況のマッピング、危険な立ち枯れの処理を実施した。</p>
	<p>【警備】</p> <p>園内の財産を保全するために必要な環境を整備する。夜間の警備は機械警備による委託業務とする。</p>	<p>車上荒らし対策・不法投棄防止として監視カメラ・看板を設置し、職員による巡回強化や声掛けを実施。夜間の施設警備は、警備保障会社に委託することにより管理している。</p>	A(良)	<p>地域の交番等と連携し見回りを依頼するなど犯罪防止に務めた。来園者とコミュニケーションを密にすることで安全な利用に貢献できた。夜間施設管理についても適正に行われている。</p>
	<p>【小規模修繕】</p> <p>危険防止及び安全確保等のため、必要に応じて施設の修繕等を実施する。修繕にあたり園内の資源を有効活用する。</p>	<p>老朽化した散策路の階段補修等優先順位の高い箇所から修繕を行った。企業やボランティアの力で施設の維持管理も行った。園内木造構造物の安全点検を行い改修計画を作成した。</p>	S(優)	<p>企業等によるボランティアでの修繕補修を心がけ、県民が主体的に公園管理に参画している。その結果低コストでの管理につながっている。木製工作物の長期的なビジョンをもとに計画的に整備している。</p>
	<p>【その他】</p> <p>活動スタッフの活動日「森もりの日」を設定し、ボランティアスタッフによる公園施設の維持管理及び自然環境の保全を行う。生物多様性保全の取り組みを計画的に実施する。</p>	<p>「森もりの日」を月2回実施。時節毎に必要な施設管理作業、田畑作業、森林・湿地整備、外来種の駆除等生物多様性保全の取り組みを積極的に実施。豊かな自然環境が施設の大きな価値と捉え保全に取り組んだ。今必要な森づくりを意識し、柔軟に計画を立て森づくりを実施した。</p>	S(優)	<p>県民が主体的に森づくりに参画している。企業ボランティア等の参画により効率的に里山を保全し整備を行っている。ボランティアスタッフの負担の軽減にも配慮し持続可能な活動を展開している。</p>

評価項目	事業計画 ※事業計画書・業務仕様書等の主な内容を記載	実績 ※事業報告書・現地調査等の結果等の主な内容を記載	指定管理者による自己評価
運営業務	<b>【開館日・開館時間等】</b>  <b>【休園日】</b> 毎週月曜日（月曜日が祝日にあたる時は翌日）、年末年始（12月29日～1月3日） <b>【開園時間】</b> 9:00～17:00	<b>【休園日】</b> 毎週月曜日（月曜日が祝日にあたる時は翌日）、年末年始（12月29日～1月3日） <b>【開園時間】</b> 9:00～17:00 閉園30分前と10分前に閉園案内の放送を実施。	<b>S(優)</b> 出来得る限り計画通り開園した。感染症流行状況に伴う県よりの要請の下、臨時休園、屋内施設の閉鎖処置を行った。独自の利用基準も策定し、状況に合わせて施設・設備利用や、備品利用、プログラム提供、スタッフ活動などに適宜必要な制限を備け、流動的かつ臨機応変に対応した。
	<b>【公共性・公平性の確保】</b>  地域の資源として豊かな自然環境を保全する。HP等各種メディアを活用し広域的に活動の周知に努める。利用者のニーズを把握し、だれでも足を運び楽しめる公園、参加しやすいプログラムを企画する。魅力ある事業を行う。	月2回「森もりの日」を設定し、誰でも参加できる県民参加の森づくりを推進した。フェイスブック・インスタグラム等SNSで広く広報を行い、公園の魅力や活動の様子を発信した。多様な内容のプログラムを企画実施し、ニーズにきめ細かく対応した。園内に情報交換用の掲示板を新たに設け活動の活性化とコミュニケーションの深化を図った。高齢化社会と身障者や車イスでの利用を視野に入れたユニバーサルデザインを意識した公園づくりと利用の提案と誘致を推進した。	<b>S(優)</b> 自然環境保全の広域的な活動拠点として役割を果たしている。広域的な広報を行い、広く県民にPRした。HP・SNS等を活用し、新鮮な情報を提供した。県民がボランティアとして事業に参画しやすい環境整備を進めた。スタッフが主体となって幅広いニーズを受け入れる公園づくり、仕組みづくりに意欲的に取り組むことが出来た。
	<b>【各種事業・プログラムの実施状況】</b>  プログラム開催回数（100回程度/年） 県民の多様なニーズに対応したプログラムを開催する。 利用団体のニーズに合ったプログラムの開催。ボランティアによる里山づくり活動。平日の利用促進。 企業との協働事業の推進。 月2回の「冒険ひろば」を開催する。	木育準備会による木育木エプログラム、大人向けプレミアムプログラムの実施や平日プログラムの充実により新たな利用者を拡大した。環境学習、団体利用の受け入れとサポートにボランティアスタッフが主体的に関わり実施した。「子どもの冒険ひろば開設費等補助事業」の補助を受けて月2回の冒険ひろばを開催し、子どもたちが自然の中で安心して遊べる環境を整備した。 感染症流行に伴い、計画通りの実行は困難となり中止や規模の縮小、内容の調整を余儀なくされる1年となった。  総プログラム企画数 135事業（中止含む） 実開催プログラム数 59事業	<b>S(優)</b> ボランティアスタッフ主体のプログラム企画・運営が定着しており、企画数・内容ともに充実している。知識や技術向上を目的とした大人向けのプログラムを開催し高水準の内容を提供することが出来、参加者より高い評価を得た。大人に里山の魅力を発信することでボランティアへの参画のきっかけとなった。園内の資源を活用して木育のプログラムを導入し持続可能な森づくりに寄与している。多様で充実したプログラム運営を実現している。 感染症流行への対応により、中止が相次ぐなど不自由かつ厳しいプログラム運営が続く1年となったが、常に最善の状態プログラム提供が出来るようにモチベーションを保ち準備・計画を怠らずに感染症対策を加味したプログラムの企画運営を行うことが出来た。非常時における新たなプログラムの手法確立など今後の運営に活かすことが出来る経験も得た。
	<b>【利用者満足度調査結果】</b>  プログラム参加者自身がふりかえりを行い参加者の変化を検証し満足度を高める。	プログラム参加者のふりかえりを実施。参加者のふりかえりを重視し、何を提供したかよりもそれにより参加者に何が起こったのかを検証し、内容に反映することで満足度の向上に努めた。	<b>A(良)</b> ふりかえり結果を分析し、次期プログラムに反映させることにより、プログラム内容の充実、丁寧な対応、適正な参加料設定などに活かし、多くのリピーターを得て、高く評価されている。
	<b>【その他】</b>  関係機関・企業との協働を進めている。	企業と協働での森づくり・プログラムを実施。加東市とのかとう環境パートナーシップ協定の締結。	<b>S(優)</b> 企業や各種団体と協働での事業運営を推進している。広域的な活動拠点としての役割を担っている。
利用状況	<b>【利用者数】</b>  総利用者数：23,351人 団体利用者数：2,331人 プログラム参加者：1,105人 里山づくり活動：457人 感染症流行と感染症流行対策としての臨時休園期間を設けたことやスタッフ活動、プログラム、団体利用など大多数の事業において中止や縮小を余儀なくされ、年間利用者数は大きく減員した。	<b>S(優)</b> 臨時休園をはじめスタッフ活動、プログラムなど多くの企画を通常通りに実施できない中、自然豊かで広大な屋外施設として感染症流行下においても3密を回避し、安心して過ごせる場所としての新たなニーズに答えることもできた。	



評価項目	事業計画 ※事業計画書・業務仕様書等の主な内容を記載	実績 ※事業報告書・現地調査等の結果等の主な内容を記載	指定管理者による自己評価	
収支状況	<b>【収支計画と実績の比較】</b>  予算額(指定管理料) 収入 27,058千円 支出 27,058千円	決算額(指定管理料) 収入 48,943千円 支出 48,943千円 指定管理料は、(収支)計画通りに執行しプログラムの参加料収入は、必要な経費へ適正に執行した。管理運営の見直しやプログラムの精査を行うとともに、ボランティアの協力を得ることで経費削減に努め、適正に管理運営を行った。	A(良)	限られた指定管理料で運営するため、事業や保守整備は危険度・緊急性を見極めた優先順位を検討し、長期的な計画の下維持管理を遂行した。 持続可能な運営のため、自主事業による運営協力金獲得や助成金の活用にも務めた。
	<b>【経費節減に向けた取り組み】</b>  業務をPDCAサイクルに則り、常に見直すことで効率的に行う。全ての職員が経費節減を心がけ取り組む。ボランティアスタッフ・企業等との協働により県民参加の公園運営を実現する。県民のニーズと公園の存在意義を精査し、より効果的な事業を展開する。	日常業務の優先度を精査し、効率的に運営することでコストの削減に取り組んだ。事業ごとにふりかえりを行い、次の事業をより効果的に実施できるよう努めた。プログラムの運営・施設運営がスムーズに行える適切な支出を行った。運営のコスト意識を職員に徹底した。	S(優)	森の資源を有効活用し自然資源の価値を高めることでコスト以上の価値を生み出すことができた。スタッフの意識が高まったことにより、効率的な運営を推進することができた。コスト削減のための工夫を模索し、協働による相乗効果で費用対効果を最大限引き上げることが出来た。企業からの運営協力金を活用することができた。
	<b>【助成対象事業の展開】</b>  環境保全事業、子どもの居場所等に係わる助成事業の情報収集を行い積極的に活用する。	阪急阪神ゆめ・まち”ええこと”応援団 3万円 子どもの冒険ひろば開設費等助成事業 48万円 GreenGift地球元気プログラム 60万円 文部科学省委託事業	S(優)	これまでの活動を基礎としたより充実した事業展開が可能となり有効的に活用できた。企業、団体等多様な分野から助成頂けたことにより、社会貢献活動としての里山保全活動の実績をPRする機会が増えた。
	<b>【その他】</b>  自主事業の実施	園内の自然資源および収穫物等を有効利用し付加価値を加えることで公園の魅力を発信すると共に運営協力金として相応の対価を得た。 ○田植え・稲刈り体験をはじめとした稲作体験の成果物であるアイガモ米・モチ米の販売 ○畑を利用した苗付け・収穫体験の成果物である野菜類の販売 ○植菌・収穫体験の成果物であるシイタケの販売 ○特別行事開催による収益(中止) ○会費収入を伴う、友の会・応援団の年次募集 ○補助金・助成金事業への申請および運営 ○木工研修による生産物の販売	S(優)	限られた指定管理料に創意工夫により自主事業を充実することでコスト削減だけでなく新たな価値を創造することで持続可能な運営に動めた。
	<b>【人員の適切な配置】</b>  事務局職員5名、維持管理職員1名、園地管理人4名の10名体制で運営を実施。	計画通り人員を配置し事務局運営を実施した。 ボランティアスタッフを中心とした理事会により運営方針を決定。県民参加の運営を実現している。ボランティアスタッフは令和3年3月末時点で45名が登録。	A(良)	PDCAサイクルの実践や研修等で資質向上を目指した。 職員とボランティアスタッフ一人ひとりが指定管理者としての意識を高く持ち、日々の公園運営に取り組んでいる。
	<b>【苦情要望等の対応体制・内容】</b>  苦情要望に対しては真摯に対応し、公園のイメージアップに努める。	利用者の立場になり、より快適に利用できる環境整備を心がけている。 隣接田畑への支障木の伐採など隣接地権者を尊重し、地域と良好な関係を維持している。	A(良)	利用者とのコミュニケーションを図り、ニーズに柔軟に対応した結果、利用者が気持ちよく利用できる環境を提供できた。 地域の一員として地域住民と平素より良好な関係を築き、その役割を果たしている。

評価項目	事業計画 ※事業計画書・業務仕様書等の主な内容を記載	実績 ※事業報告書・現地調査等の結果等の主な内容を記載	指定管理者による自己評価	
運営体制	【危機管理体制の確保】  危機管理体制を整備する。 個人情報の保護に努める。	緊急連絡網、防火管理組織等の整備を行った。個人情報の管理体制を徹底。園内各所に緊急連絡用の看板を設置。ため池に救助用浮き輪を設置。ボランティアスタッフ自身による安全講習会や子どもたちに大切に正しく道具を扱えるよう指導、安全意識の醸成と安全第一の運営を行った。	S(優)  ボランティアスタッフが主体的に安全に対する呼びかけを行い、安全意識の向上につながった。組織として安全衛生担当理事を中心に危機管理体制の構築を図っている。食の提供に際して、食品衛生管理者を配置し食中毒予防に関しても最大限に留意した。時勢に必要な危機管理として感染症対策に関する意見交換・研修を実施し意識の向上を図った。	
	【県・関係機関との連携体制】  県、地域、関係機関との連携を図る。	嬉野台生涯教育センター、教育研修所、県民局、地元NPO、教育機関、かとう環境パートナーシップなど連携を図った。とんどまつりの実施や地元へもち米の寄贈など地域間及び世代間の更なる交流の推進が図れた。身障者や高齢者、及びその支援団体の利用促進と協働での団体利用プログラムを立案、実施。高校生や大学生主体のプログラム運営の機会の提供とサポートができた。ひょうごSDGsネットワークと連携し、SDGsを意識した取り組み実施に向けて、県民や企業と協働で情報収集、プログラム立案ができた。	S(優)	地元自治体と環境パートナーシップ協定を締結し連携を図るとともに地域に貢献している。関係機関と平素よりコミュニケーションを密に、良好な関係づくりを心がけて協働による相乗効果を生み出す取り組みを行っている。
	【その他】  ボランティアスタッフ自身の手でいきいきと活動できる県民参加の公園づくりを目指す。	すべての事業を活動スタッフである県民の主体的な参画により運営した。直面する課題に引き合い持続可能な運営を目指している。持続可能な森づくり・公園運営推進のため、公園の資源を幅広い視野で捉え、積極的に発掘、利用する仕組みを「里山資源活用」として構築し、活動指針の1つとして推進した。	S(優)	活動スタッフの主体的な公園運営により、多様な世代 多様な人々が創るふるさとの森公園づくりが実現している。若者の参画により持続可能な人材育成を計画的に行っている。企業等の協働促進により効率的な管理運営ができた。既存の活動だけに満足せず、常に新鮮な目線、意見を取り入れ実行に移すことが出来た。
		総合評価	S(優)  感染症流行拡大の影響により全般的に計画どおり事業を実施することは難しかった。不自由な1年となったが出来ることを出来る範囲で実行し、状況に適宜対応した運営を行い、新たな公園の価値を創造するための取り組みを行った。県民が主体的に参画し、県民のための公園として存在価値を生み出している。今後も多くの人に愛され、持続可能な運営を目指す。	

## 2 施設所管課による総合評価

総合評価値

S(優)

業務改善に向けた分析・指導内容(成果のあった点・改善を要する点)

- 活動スタッフ(ボランティアや企業の森参加企業)が主体的にプログラムや森林作業等の事業を企画し、実施している。月二回、「森もりの日」と称する全体作業日を設け、活動スタッフと一般参加者、企業間の交流が活発に行われている。
- 森林整備、施設補修についてもボランティアでの参画により行われている。
- コロナ禍に対応し、感染症防止対策を踏まえたプログラム活動を工夫して行っている。
- ふるさとの森公園の「県民の参画と協働により、森林の保全と創造を進めるとともに、地元住民と都市住民、世代間交流の場、親子・家族のふれあいの場、自然観察・体験の場を提供し、人と自然が共生する豊かな森づくりを推進する」との理念を踏まえた運営が行われており、引き続きこうした取り組みを継続・拡充することが望まれる。

## 1 指定管理者による自己評価

評価項目	事業計画 ※事業計画書・業務仕様書等の主な内容を記載	実績 ※事業報告書・現地調査等の結果等の主な内容を記載	指定管理者による自己評価	
施設維持 管理業務	【清掃】 全体の清掃については適宜実施し、トイレ清掃については、週2回の定期清掃を行う。	全体の清掃については適宜実施した。施設内清掃は毎日行い、トイレ清掃についても毎週2回の定期清掃を実施した。	S(優)	計画どおり実施し、来園者から非常に清潔なトイレだと喜ばれている。また、清掃以外にも来園者の心和むよう毎回生花を生けている。
	【設備保守管理】 散策路の保守点検を行う。 浄化槽等の保守点検を行う。 芝屋根の管理を行う。	毎月初めと中ごろの2回管理点検を実施した。業者委託により浄化槽の保守管理を実施した。管理運営協議会に委託し、年間3回の芝屋根の草ひき・草刈を実施した。	A(良)	計画のとおり確実に実施できた。
	【植栽管理】 適正な植栽管理を行う。	剪定や施肥等の植栽管理を行った。 芝生広場の水掛を行った。	A(良)	夏場の管理については、職員でも水やり等を行なった。
	【警備】 夜間警備をセコムと委託契約を結ぶ。	夜間警備をセコムと委託契約を結んだ。	A(良)	東の谷で3回・西の谷で0回(施錠すれ等)警報が鳴り業者の世話になったが異常なし。
	【小規模修繕】 善良な管理のため気をつけて修理していく。	ゆずりあい駐車場の白線を引き直し。管理棟と農舎の建具・引き戸の修繕と調整を行った。	S(優)	善良な管理が出来た。
	【その他】 芝生広場・園地・ジンファム・田畑・ビオトープ等の管理をする。	管理棟前の芝生広場、後の芝生広場について、適時刈込と1回の施肥を行った。	A(良)	美しい芝生広場の維持管理ができた。 ビオトープ、田畑の管理についてボランティアさんが頑張ってくれた。
運営業務	【開館日・開館時間等】 西谷の森公園の規定通りの開館日、開館時間どおり開館する。	新型コロナウイルス感染拡大防止のため、県から要請された休園を行った。その他、大雨等の警報発令時に入山禁止を行った。	S(優)	県からの要請通りの開園・休園は出来た。
	【公共性・公平性の確保】 公共性・公平性の確保をする。	特に、障害者や高齢者等に配慮した。	S(優)	障害者含む来園者全ての方に公平・公正に対処した。
	【各種事業・プログラムの実施状況】 ①四季折々のプログラムの実施。 ②子供を中心としたプログラムの実施。 ③PR活動の実施。	①、②については、土曜、日曜、休日を中心に年間85のプログラムを企画したが、コロナの関係で36のプログラムが中止・延期になった。(内容等については、報告書の通り) ③については、今まで通り、市の広報紙、タウン紙を活用した。市内の各まちづくり協議会、スポーツ21の代表に案内した。	A(良)	中止・延期になったプログラムの参加者と講師への対応は適切に行なった。
	【利用者満足度調査結果】 来園者やプログラム参加者にアンケート調査をする	計画通り実施した。	A(良)	来園者や参加者は、満足してもらっている。リピーターは増えてきている。一方、コロナ禍で郊外に出掛けてくる家族連れも増えている。
利用状況	【利用者数】 当初3月までの目標人数 20,000人	年間利用者数 38,484人 一般利用者 35,236人 プログラム参加者 1,062人 団体利用者 1,478人 視察者 0人 その他 0人	S(優)	前年度3月より、新型コロナウイルス感染拡大防止策で、休園・プログラムの中止があったが、土日祝は車で来る家族連れが多くなり、問い合わせの電話もよくなってきた。
	【施設稼働率】 100パーセントの稼働を目標とする。	休園や施設の閉鎖の要請があったが、それ以外では各施設で100パーセントの稼働率であった。	S(優)	全体的には100パーセントの稼働率であった。

収支状況	【収支計画と実績の比較】 予算額(指定管理料) 収入29,263千円 支出29,263千円	指定管理料 収入 30,460,600円 支出 30,460,600円	A(良)	計画どおりの執行が出来た。 HPスマホ化対応費 60,000円 換気設備工事費 1,062,600円 3月補正 75,000円
	【経費節減に向けた取組み】 最小の経費で最大の効果に心掛ける。	経費節減に心掛け職員自らが事業に取り組んだ。	S(優)	指定管理料の範囲で活動できた。
	【その他】 地元講師の活用を図る。	プログラムの講師については、大半が職員と地元の講師で運営した。	S(優)	計画どおり実施した。
運営体制	【人員の適切な配置】 少数精鋭の配置とする。	総施設長 1人、公園長 1人、事務局長 1人、総務担当 1人、経理担当 1人、企画担当、2人、田・畑・里山担当、4人、ボランティア 65人、臨時アルバイト 30~50人	A(良)	広い園内の維持管理を適正に行えた。
	【苦情要望等の対応体制・内容】 真摯に受け止め迅速丁寧な対応に努める。	公園長、事務局長で対応。 軽微な要望等は事務局長に報告各担当で処理する。	A(良)	メール等での要望・質問は、迅速に回答をしている。
	【危機管理体制の確保】 警察、消防署、地元自治会等への連絡体制を確立する。	緊急時に迅速な連携を取られるように連絡網を整え、緊急時のマニュアルを作成した。	A(良)	連絡体制の強化は図れた。
	【県・関係機関との連携体制】 県・市・関係機関との連携を密に行う。	電話、メール等で連携が図れた。	A(良)	些細なことでも指導を受け、連携は密にできた。特にコロナ関係では大切な連絡を共有する事に徹底した。
	【その他】 宝塚西谷の森公園管理運営協議会の充実を図る。	23年度から各公園を視察、研修しそこで総会を実施していたが、コロナの関係で、総会資料を送るのみにした。	A(良)	会議が開けないので残念だった。
総合評価			S(優)	コロナに左右された1年だったが、管理面では、来園者の居ない間に修繕や換気設備の設置などができた。また、休園やプログラムの中止などで管理料の支出が減ったが、おかげで鹿・猪の防獣柵を設置することが出来、経理も適切に執行できた。

## 2 施設所管課による総合評価

総合評価値	S(優)
-------	------

### 業務改善に向けた分析・指導内容(成果のあった点・改善を要する点)

○都市近郊の立地を生かし、都市住民に対し、里山の大切さの啓発を行っている。(コロナ禍でほとんどの公園の来園者が大幅に減少している中、当公園については前年同月の実績をこえる月があった。)

○地域の大学の働きかけ等、ボランティアの高齢化に対応した取り組みも進めている。

○ふるさとの森公園の「県民の参画と協働により、森林の保全と創造を進めるとともに、地元住民と都市住民、世代間交流の場、親子・家族のふれあいの場、自然観察・体験の場を提供し、人と自然が共生する豊かな森づくりを推進する」との理念を踏まえた運営が行われており、引き続きこうした取り組みを継続・拡充することが望まれる。

1 指定管理者による自己評価

評価項目	事業計画 ※事業計画書・業務仕様書等の主な内容を記載	実績 ※事業報告書・現地調査等の結果等の主な内容を記載	指定管理者による自己評価
施設維持 管理業務	<p>【清掃】</p> <p>利用者の快適性をさらに高めるため管理水準を超えた清掃管理業務を実施</p>	<p>・管理水準を超える内容で業者に委託し実施 (トイレ:2回/日、共用部分:2回/日、ゴミ収集:毎日、貸館:利用後随時、定期清掃:2回/年 など) ・職員の日常巡視巡回中にも対応</p>	<p>S(優)</p> <p>古くても清潔で気持ちよく利用できるよう、常に注意を払い、利用者にも利用後の清掃を促し協力を得ることで、さらに快適性が高まっている。来園者を対象としたアンケートでは、来園者の99%が施設の清潔さについて「とても良い」、「良い」と回答していることから、適正な清掃が実施できていると認識している。ただし、来園者によるゴミの不法投棄については、さらなる徹底が課題である。</p>
	<p>【設備保守管理】</p> <p>建物・工作物・遊具などの保守点検、整備、修繕履歴を記載した点検記録簿を作成し、施設・設備の状況を記録 法定水準を超えた保守点検業務に配慮</p>	<p>・建物、構造物は毎日職員が巡視し点検(休園日は警備会社に委託) ・設備の法定、定期点検は業者に委託(電気工作物:月次点検12回/年、防火設備:2回/年、自動ドア:2回/年、空調設備:2回/年、エレベーター:月次点検12回/年、木製施設:1回/年 など)</p>	<p>A(良)</p> <p>毎日の巡視の徹底や法定点検等を計画どおり実施したことにより、故障発生時の影響を最小限に抑えることができた。今後も利用者の安全確保及び利便性に考慮しつつ取り組んでいく。なお、施設の老朽化に伴い、不具合が増加傾向にあることから、抜本的な対策が必要である。</p>
	<p>【植栽管理】</p> <p>「生物多様性の保全」を重視した「森づくり事業計画」(平成25～29年度)に基づき、きめ細やかで的確な施業の実施</p>	<p>経験豊富な樹木医や「三木山サポーター」の協力の他、調査ボランティアグループや専門業者に委託し、新たに多様な生物が生息する環境の創生など事業計画に基づく管理を実施</p>	<p>S(優)</p> <p>事業計画に基づき雑木伐採・ススキ、チガヤ等の草原性植物の植栽、水辺の環境創生等を実施し、利用者満足度の向上、生物多様性への環境づくりに努めた。更に、ボランティアのさらなる意欲向上と積極的な連携を図ることにより魅力ある景観づくりに努めた。</p>
	<p>【警備】</p> <p>事故、盗難、破壊等の犯罪及び火災等の発生を防止し、利用者の安全及び財産の保全</p>	<p>利用者の安全確保や事故や不正行為防止のため、開館時間中は職員による、夜間及び休日は委託業者による巡回警備を行い、常に園内の状況に注意を払うとともに、必要に応じて地元警察による巡回を要請</p>	<p>A(良)</p> <p>施錠や機械警備等の徹底を図るとともに消防訓練等を実施することにより、事故、盗難、火災等の発生予防に努めた。</p>
	<p>【小規模修繕】</p> <p>概ね100千円以上については、所管課と協議し、それ未満については、指定管理者が実施</p>	<p>・100千円以上については、所管課と協議し、危険箇所について来園者に注意喚起 ・100千円未満については、利便性を考慮のうえ迅速な修繕を実施 ・施設の老朽化に伴う修繕については、来園者の安全性の確保に配慮し早期に可能な限り実施</p>	<p>S(優)</p> <p>異常を発見した場合は速やかに職員自らによる修繕を行い、職員で解決できない場合には業者による点検等を実施し、利用者への影響を最小限に留めるよう配慮した。</p>
	<p>【その他】</p> <p>物品管理、各施設の開錠・施錠、施設維持管理</p>	<p>・公園職員に対して周知徹底</p>	<p>S(優)</p> <p>物品の紛失の被害も無く、適正な開錠・施錠が実施できた。</p>
<p>【開館日・開館時間等】</p> <p>条例、規則等に基づき開館日・開館時間等の管理を実施</p>	<p>条例、規則等に基づき開館日・開館時間等の管理を実施</p>	<p>S(優)</p> <p>条例、規則等に基づき開館日・開館時間等を適切に運用するとともに、HP等により開館日・開館時間の早期周知を図り、利用者の利便性確保に努めた。</p>	
<p>【公共性・公平性の確保】</p> <p>利用者の年齢や性別、障害の有無などに係わらず、平等利用を確保し、利用サービスの向上を図る。</p>	<p>接遇研修を含む職員研修を実施し、また受付業務におけるマニュアルを強化し、公平で安心親切的な対応を心がけるよう職員全員に周知徹底している。</p>	<p>S(優)</p> <p>来園者を対象としたアンケートでは、スタッフの対応について、「たいへん満足」、「やや満足」と回答した利用者が98%以上と非常に高い評価を得ており、来園者に対するサービスの向上ができたと考えられる。</p>	

評価項目	事業計画 ※事業計画書・業務仕様書等の主な内容を記載	実績 ※事業報告書・現地調査等の結果等の主な内容を記載	指定管理者による自己評価
運営業務	【各種事業・プログラムの実施状況】 森づくり、自然観察、クラフト体験などの森林環境や生物多様性に関する普及啓発企画や音楽祭、茶会など施設利用企画などを「兵庫県立三木山森林公園運営協議会」及び「イベント検討委員会」の指導助言のもと「三木山サポーター」と連携しながら実施	・イベント 計画50回→実施23回 ・環境体験学習等 計画30回→実施16回	S(優) コロナ禍においても、県が実施している環境体験学習については、感染拡大防止対策を実施の上、実施要望があった場合には積極的に受け入れて全て実施した。 また、イベントについても、感染拡大防止対策が適切に実施できると判断した場合には積極的に実施した。
	【利用者満足度調査結果】 来園者に対する、施設利用に関するアンケートの実施。	R2.6、R2.11に来園者360人に対するアンケートを実施し、満足度に関して6月では「たいへん満足65%、やや満足34%(計99%)」、11月では「たいへん満足64%、やや満足35%(計99%)」との回答があった。	S(優) 来園者へのアンケートでは、左記のとおり非常に高い評価を得ていること、また、リピーターが約8割いることから、利用者の満足度は非常に高いと認識している。
	【その他】 情報発信等	・ホームページやブログの更新またはチラシ発送などの有効利用による開けた公園のアピール ・情報誌の無料掲載による情報提供	S(優) 今年度も県外からも特に森のクラフト館やBBQ広場の数多くの問い合わせがあった。今後もさらに集客を図る。
利用状況	【利用者数】 入園者目標数60万人	R2年度入園者数 513,412人	S(優) 県のコロナ対処方針等に基づき閉園措置を実施した時期には、入園者数は減少したが、その他の時期には、コロナ禍の中、三密が回避できる施設として、感染拡大防止対策を適切に実施することにより例年同等以上の入園者数となった。
	【施設稼働率】 利用料収入5,700,000円が見込める施設稼働率の確保。	利用料収入 2,960,500円 利用率 音楽ホール 27.3% 多目的ホール 14.0% 展示室 40.8% 研修室 16.6% 会議室 16.6% クラフト館 99.9%	A(良) 新型コロナウイルス感染拡大防止のため、閉園するなどの措置が講じられたことなどにより、キャンセルが相次ぎ、施設利用者が激減し、利用料金収入が減収した。今後も利用率向上に努めていきたい。
収支状況	【収支計画と実績の比較】 指定管理料 106,822,000円 利用料収入 5,700,000円 その他収入 13,000,000円	指定管理料 113,740,461円 利用料収入 2,960,500円 その他収入 6,857,748円	A(良) 広報等により、目標とする利用料金収入の確保に努めたが、新型コロナウイルスの影響による閉園、キャンセルが相次ぐなどにより、目標を確保できなかった。今後も収入の確保に努めたい。
	【経費節減に向けた取組み】 人件費の削減 光熱費の削減 委託料の削減	・シルバー人材センターからの人材派遣の活用 ・三木山サポーターや森林ボランティア等、協力者による業務の遂行 ・園内の照明をLED対応に交換し、デマンド監視システムによる電気使用量を削減 ・保守管理委託にかかる契約年数を5年とし経費削減(H29年度～)	S(優) 各種事業の執行にあたり、サポーター(ボランティア)等との連携強化を図るなど、人件費の削減に努めた。また、電灯の間引き消灯、室内温度28度設定、屋根散水装置の稼働、修理やボイラーの稼働調整、外灯のLED照明への転換工事の実施等を行い、光熱費の削減に努めた。
	【その他】		
運営体制	【人員の適切な配置】 予算の範囲内で有能な人材を適正配置	予算の範囲内で有能な人材を適正配置 職員数15名(職員3名、常勤嘱託9名、非常勤嘱託3名:3/31現在)	A(良) 平素から有能な人材確保に努めるとともに、イベント開催日の職員数を確保するために、勤務シフトの調整などを適切に実施した。
	【苦情要望等の対応体制・内容】 アンケート・みなさまの声・メール等により要望等を把握し対応	迅速、丁寧に対応	A(良) 窓口や電話による苦情、要望等には、迅速、丁寧に対応し、意見箱等への投函分については、改善点や今後の対応等を掲示して説明を行うなど、適切な対応に努めた。
	【危機管理体制の確保】 災害、その他事故時の利用者の安全確保等	消防訓練実施:2回/年	A(良) 危機管理マニュアル等に従ってのボランティアを含めた訓練を行い、必要時に迅速な対応ができるよう取り組んだ。

評価項目	事業計画 ※事業計画書・業務仕様書等の主な内容を記載	実績 ※事業報告書・現地調査等の結果等の主な内容を記載	指定管理者による自己評価	
	【県・関係機関との連携体制】 本社を通じて県と密に連絡を取りながら管理運営を実施 【その他】	レストラン運営会社のシンエーフーズ(株)と密接に連携	S(優)	レストラン運営会社との共催イベントを実施したり、定期的に意見交換を行い、双方の集客増加に努めることができた。
			総合評価	S(優) 定期的な施設点検や森林整備等適切な維持管理を行うとともに、集客イベント等を実施した。アンケートの利用者満足度も高く、全体的に良好な公園管理を行えたと考える。

## 2 施設所管課による総合評価

総合評価値	S(優)
-------	------

<p>業務改善に向けた分析・指導内容(成果のあった点・改善を要する点)</p> <p>○ 施設の管理については、毎日の巡視や法定点検の実施に加え、小規模修繕に迅速に対応し、来園者の利便性及び安全性を確保している。</p> <p>○ コロナ禍に対応し、感染症防止対策を踏まえた運営を工夫して行っている。</p> <p>○ 当公園の管理にあたっては、その特色である広大な里山林について、種や遺伝子を含めた生物多様性保全の大切さや森林・里山管理の必要性を来園者にわかりやすく伝え、県の森づくりに関する施策への理解と、自発的な活動意欲とを醸成していくことが求められている。これに向け、「森林とのふれあい」を深め「人と森との共生」を実現するため、専門家の意見を聞き、適切な施業計画の立案・管理に努めるとともに、公園独自のボランティアである三木山サポーターズと連携して、各種の取組みを進めている。引き続きこの取組みを進めるとともに、より一層拡充していくことが期待される。</p>
---